

かぐらおが

(題字は初代学長 山田守英氏)

第 190 号

令和5年3月31日

編集 旭川医科大学
発行 学生支援課



「オオワシ (旭山動物園)」

(写真撮影：学生支援課)

卒業する皆さんへ……………学長 西川 祐司 … 2	退職にあたって -回想43年-
令和4年度 学位記授与式 …………… 4	一般教育 生物学 教授 立野 裕幸 … 17
卒業にあたって……………医学科第45期生 遠藤ももこ … 5	退職にあたって…看護学科講座 名誉教授 服部ユカリ … 19
卒業にあたって……………医学科第45期生 近藤 寛仁 … 6	令和4年度退職に伴う最終講義が行われました …………… 21
卒業にあたって……………医学科第45期生 田中 彩乃 … 7	教授就任のご挨拶…医学部小児科学講座 高橋 悟 … 23
卒業にあたって……………医学科第45期生 松井 優治 … 8	教授就任のご挨拶…医学部救急医学講座 岡田 基 … 25
卒業にあたって……………看護学科第24期生 伊藤 朱里 … 9	第10回医学科白衣式 …………… 27
卒業にあたって……………看護学科第24期生 鈴木 歩佳 … 10	セミナー、講演会の開催報告 -看護職キャリア支援センター- … 28
卒業にあたって……………看護学科第24期生 飛弾野あい … 11	学生表彰 …………… 29
卒業にあたって……………看護学科第24期生 宮本 愛未 … 12	授業評価(2022年度前期) …………… 30
退任にあたって…社会医学講座(衛生学・健康科学分野)	国民年金の学生納付特例制度について …………… 55
名誉教授 吉田 貴彦 … 13	令和5年度授業料免除の申請について …………… 56
定年退職のご挨拶-これまでを振り返って-	令和5年度日本学生支援機構奨学生の募集について …… 57
一般教育 心理学 名誉教授 高橋 雅治 … 15	教員の異動 …………… 57



卒業する皆さんへ

旭川医科大学

学長 西川 祐 司

医学科第45期生の122名の皆さん、看護学科第24期生61名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは私が昨年4月に学長に就任し、新体制で本学を運営してから初めて送り出す卒業生で、やはり私自身、特別な感慨を抱くことを禁じ得ません。皆さんの新たな出発に際し、今後のご活躍を期待するとともに、皆さんがこれから充実した幸せな人生を送って欲しいと心から願っています。

2020年1月から始まった新型コロナウイルス感染の蔓延は皆さんの学生生活に大きな影響を与えたと思います。私たち教職員は試行錯誤しながら、この非常事態に対応しようと努力してきました。必ずしも皆さんにとって十分に満足できるものではなかったかも知れませんが、なんとか医学科、看護学科のカリキュラムを全うできて、安堵しています。ただ、皆さんにはコロナ禍による影響だけでなく、これを発端として露呈した本学のカバナンス不全とその後の長期間の学長不在により皆さんに大きな不安を与えてしまいました。これは本当に残念なことで、大変申し訳なく思っています。今年50周年を迎える私たちの大切な母校は開学時の初心に返り、新たな歩みを進めています。これからは皆さんが母校に誇りを持てるようしっかりと大学を運営していきますので安心してください。そして、皆さんそれぞれが活躍して母校を盛り立ててくれることを期待しています。

コロナ禍は図らずもオンライン交流という新しくて便利な生活習慣を私たちの間に根付かせましたが、その一方で、対面での直接的な交流がいかにかけがえのない大切なものであるかを気付かせてくれたのではないのでしょうか。幸い、コロナ禍は収まりつつあります。皆さんの医師・看護師としての修行はやはり、先輩、同僚、後輩、そして患者さんとの直接的で真に人間的な交流の形であって欲しいと思います。私が大学生の頃は今のような研修医制度はなく、基礎医学を目指していた私は卒業後すぐに病理学講座の大学院生となりました。4年間、研究と診断病理に没頭しましたが、先が見通せない若い時期の経験とその間に恩師の先生方から直接学んだことは私自身の中の核となっており、その後（現在もそうですが）、さまざまな場所で経験を積む上での基盤となっていると確かな実感があります。皆さんも卒業して4年、5年の間の新鮮な経験を特に

大切にしてください。

私たちを取り巻く世界は、国内的にも国際的にも不安定で不穏な時代に入っています。正しくないこと、理不尽なことが溢れており、これらの問題を解決することは難しく、そのためには途方もない努力と忍耐が必要です。それでも私たちは希望を失ってはならず、まず自分の周りの課題に少しずつでも取り組んでいくことから始めなければいけないと思います。ほとんどの皆さんが働くことになる臨床の現場では、難しいこと、疑問に感じることもたくさんあることでしょう。研究に従事する場合でも状況は似ています。まだ誰も答えを見出していない領域の中では、これまで大学で学んできたこと、教科書に書いてあることだけでは対応できず、自ら考え、学び、そして周りの人たちと対話し、議論しながら解決していかなければなりません。また、その時点では解決できない課題を抱えたままで、歩み続けなければいけない場合もあるはずです。ストレスを感じる人が多いかも知れませんが、本学を卒業した皆さんはきっと難しい問題や課題に粘り強く取り組んでくれると信じています。皆さんの働く現場から身近な社会、さらにより広い社会に良い影響を及ぼしてください。そして、それが皆さんの生きがいになれば本当にすばらしいことだと思います。

ボブ・ディランの名曲 Absolutely Sweet Marie の一節を英文学者の加島祥造さんは「しかし法の外側で生きるには、正直でなきゃならない」と訳し、著書の中で紹介しています。私たちの道しるべとなりうる、この逆説的で深い言葉を、巣立っていく皆さんへのはなむけに贈ります。

令和4年度 学位記授与式

令和5年3月24日(金)午前10時30分から、令和4年度旭川医科大学学位記授与式が挙行されました。新型コロナウイルス感染拡大を防止する観点から、式典の様子はライブ配信され、卒業生のご家族や在学生、教職員など多くの方にご覧いただきました。

今年度の学位記授与者は、医学科122名、看護学科61名、修士課程10名、博士課程5名、論文博士2名です。学位記は、西川学長から一人ひとりに手渡しで授与されました。学位記授与に続き、学業成績優秀者表彰が行われ、在学期間を通じて極めて優秀な学業成績を修めた4名の被表彰者に木彫りの表彰楯が贈られました。

最後に西川学長から卒業生に向けて激励のメッセージが送られ、卒業生謝辞では、卒業後の決意と感謝の言葉が述べられました。



学位記授与



学業成績優秀者表彰



式辞



医学科謝辞



看護学科謝辞

卒業にあたって

医学科第45期生 遠藤 ももこ



卒業を控えた今、学生生活を振り返ってみると、この6年間は非常に濃いものでした。

1年生から3年生の3年間は医学生としての生活を存分に楽しんだと思います。初めての一人暮らしに四苦八苦しながら、部活動に明け暮れる日々。テスト期間には図書館に缶詰めになって勉強しました。今考えてもよくやったなと思うほど忙しい毎日でしたが、青春の延長戦を謳歌しました。

4年生以降、私たちの学生生活は一変しました。いつ授業が始まるのかもわからず、これまで毎日会っていた友人や部活動の先輩後輩との交流も制限されました。臨床実習前OSCEではまだ模擬患者さんを診察することができず、シミュレーターやマネキンを用いて行われました。胸腹部の診察でマネキンを打診した際に、プラスチックの乾いた音が寂しく響いたのを今でもよく覚えています。これで臨床実習に出ていいのだろうか、その先に控える実習について思い悩んだものです。

幸運なことに、私たちが実習に出るころには、制限はあるものの対面実習ができるようになっていました。初めての問診、術野、カンファレンスでの発表など、何もかもが新鮮でした。誰とも会えず、自宅でオンライン課題をこなしたあの日々があったからこそ、実習を行える毎日が貴重であると実感できたのだと思います。

コロナ禍以前とコロナ禍での学生生活、どちらも経験したからこそ、今こうして無事に卒業を迎えられることが、当たり前ではない大変ありがたいことなのだと思います。このような時代を生きている私たちだからこそ、体験できたことや持っている感情があります。これから私たちが医師として働いていく中で、この経験はきっと糧になると信じています。コロナ禍で学生生活を送ってきた在校生のみなさん、特にコロナ禍以降に入学してきた皆さんは、他の世代では想像できない大変な経験をしてきたことと思いますが、みなさんにしかできないこともあると信じて、残りの学生生活も大切にしてほしいと思います。

最後に、6年間お世話になった先生方や医療従事者の方々、ともにたくさんの思い出を作ってくれた45期の同期、そして離れた場所からずっと応援してくれていた家族に、心より感謝申し上げます。これから長い人生をかけて、皆さんに恩返しをできるよう精進してまいります。

卒業にあたって

医学科第45期生 近藤 寛仁



「病に苦しむ方の苦痛を和らげ、皆を笑顔にできるような人になりたい」。中学1年の時にそのように志してから12年が経ちました。思い返せば決して楽な道ではありませんでしたが、たくさんの方々の支えによって歩いて来れたと感じています。

私は愛知県出身で、今まで行ったことも聞いたこともない「旭川」という土地でうまく生活できるか、周りに馴染むことができるか、そして何より勉強についていけるのか不安でしたが、いざ大学生活が始まると、たくさんの方に恵まれ、みんなで一丸となって膨大な試験に立ち向かうことができたのはとても幸運であったと感じています。

また所属していた雪艇倶楽部でも大学の枠を超えて多くの仲間と出会い、幼い頃から大好きなアウトドア活動を思う存分楽しむことができ、愛知にそのまま残っていたら決してできないような思い出を作ることができました。

4年生の終わり頃から始まった臨床実習では、様々な患者さんや疾患に関わらせていただきました。初めはカンファレンスのプレゼンテーションや術野で立ち続けることすらままならず、指導医の先生や患者さんに迷惑をかけてしまったと落ち込むことも多々ありましたが、実習を通じて今までの「教科書を覚えること」ではなく、「今実際にいる患者さんにとって何が最適か、何が起きているのか、常に自分で考えること」が重要であることに気づかされました。実習で自分で調べ、考えて学んだことは医師国家試験の勉強でも役に立ち、今後もしもいざというときに自分の力になってくれると信じているので、後輩の皆さんはぜひ臨床実習の経験を大切にしてください。

最後になりますが、これまで支えてくださった両親や仲間、先輩、後輩、熱心に指導してくださった先生方、支えてくださった全ての方々に心より感謝しています。今後も初心を忘れず、皆を「笑顔」にできるような医師を目指して日々努力していきたいと思っています。

卒業にあたって

医学科第45期生 田中彩乃



卒業にあたって、これから一人の社会人、そして医師として修練していく事実に身の引き締まる思いです。

思い返せば6年間の学生生活はあっという間に過ぎていきました。幸運なことに、多様な価値観をもつ人々と出会うことができ、良き仲間にも恵まれました。日々刺激を受けながら勉学や、時に遊びに励んだことはかけがえのない経験です。

近年の機械学習の発達は著しく、AIによる仕事の自動化が予想されています。興味深いことに、医師の仕事もAIに代替される可能性が指摘されています。では、医師の仕事は完全に自動化できるものなのでしょうか。私はそうは思いません。たしかに、AIに医学的知識を学習させることで人間よりもはるかに早く、正確な診断を下すことは可能になるでしょう。しかし、診断だけが医師の仕事ではありません。臨床実習において、医師から診断結果を伝えられた患者さんやご家族が、少なからず不安や動揺を表出する場面を目の当たりにすることで、病の告知が患者さんにショックを与える行為であることを再認識しました。日々の生活で、同じ情報でも伝え方一つで受け取り方が大きく変化することは多々ありますが、医師-患者間でも同様ではないでしょうか。実際の医療現場で学ばせていただいた今、その思いはいつそう増しています。目の前の患者さんにとって苦痛な情報をどう伝えるか、医学的知見をどう説明すれば患者さんが病を受け入れられるかを考えることも医師の重要な仕事です。これは人間にしかできないことだと私は考えます。

卒業後は、習得すべき知識や技術、仕事量の膨大さに圧倒されることと思います。心情に配慮する余裕がなくなることもあると思います。それでもなお、患者さんに寄り添うことをあきらめず、知識や技術の研鑽に努めます。

最後に、今まで苦楽をともにした学友、卒業まで見守ってくれた両親、熱心にご指導くださった先生方に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

卒業にあたって

医学科第45期生 松井優治



6年間、たくさんの出会いがありました。先生方・職員の皆様には講義・実習を通して学問・医療を、担当患者さんには対話・医療を通じて忘れてはならない初心を教えてくださいました。優しく、面白く、個性的で才能ある同級生・先輩後輩たちには他愛もない会話や試験・実習・部活動を通して刺激を貰いました。日常で出会った人々から地域の社会生活の温もりを感じました。一方で、人の言動や組織の対応に首を傾げるような場面にも遭遇しました。しかし、それらすらも振り返ってみれば我が振りを直す良い出会いになったと思えます。人それぞれの立場があり、様々な事情や視点があることに思いを巡らせながら、誰が言っているかではなく、何を言っているかで物事を判断できるように、考え続けます。

6年間、多くの気づきがありました。特に、健康な心身を保ち、多方面に努力を重ねることの重要性を感じました。試験勉強だけ頑張るのではなく、人と支え合いながら、部活動、アルバイト、趣味、日常等それぞれに真摯に取り組む友人や先輩後輩の姿は、とても格好良く映りました。自分自身も良好な人間関係を土台に、どんな場面でも自らの役割を果たし、更なる信頼を得る好循環を目指していきます。そして何より、心身共に健康でなければ何事に対しても努力を重ねることはできません。体調を崩したり、辛い出来事に心が揺り動かされることもあるでしょうが、なるべく安定した自分でいられるように心がけます。

この3年間、多くのものを失いました。教育・部活動の機会、行けるはずだった場所、できるはずだった経験、最期に会えるはずだった大切な人との時間。誰が埋め合わせをしてくれるわけでもなく、失われた時間は残念ながら返ってきません。しかし、孤独を感じながらも家であれこれと考え、自らの価値観と向かい合った時間は無駄ではなかったと思います。今後に生かさなければなりません。

今後も、人それぞれの困難に直面すると思います。また、医療・地域医療や社会全体の共通する課題に取り組まなければなりません。大学生活で得た人の繋がりや経験、考えたことを生かして一歩ずつ進んでいきます。家族と、出会ったすべてのみなさま、ありがとうございました。

卒業にあたって

看護学科第24期生 伊藤 朱里



旭川医科大学に入学して4年という歳月が経ち、様々な出来事や出会いが、私を成長させてくれたと実感しています。

1年目。まず直面したのは、大学における学びの難しさです。事象を根拠と結び付けて考えることに慣れず大変でしたが、今では膨大な専門知識を身につけるために必要な考え方であることを十分に理解することができます。講義だけでなく、臨地実習においても、看護の世界がこんなに厳しく、責任の伴うものなのだと感じたことは今でも忘れません。

2年目。COVID-19の世界的拡大により、これまでの生活を普通にできなくなりました。講義や実習はオンライン上となり、やりづらさを感じながらも、自宅でできることを精一杯やりました。Zoomの画面越しに同期の顔を見て、みんな頑張っているんだと思い、モチベーション維持につなげていました。

3年目。自粛生活が緩和され、多くのボランティア活動に参加しました。世代の違う地域の方との交流を通して、人との交流に制限がある時でも、最大限の方法を探しながらお互いを支え合う大切さを学びました。

4年目。助産師課程を専攻し、看護師課程と並行しながら、忙しい毎日を過ごしました。夜遅くまで大学に残り、メンバーと勉強や演習をしたことは忘れられません。できない自分に直面し、悔しさで泣いたこともありました。この1年の経験は、この先つまりいた時に自分を起き上がらせてくれる糧となると思います。

最後に、医療機関のひっ迫状態が続いている中、実習を引き受けてくださった病院関係者の皆様、受け持ちに同意してくださった方々、見守りご指導くださった教職員の皆様には、貴重な学びの機会を与えていただいたことに、深く感謝申し上げます。そして、4年間、美味しいご飯をつくってくれた下宿の管理人さん、ありがとうございました。これからは、医療従事者としての責任を果たせるように、自己研鑽を怠らず、社会に貢献していきたいと思っています。

卒業にあたって

看護学科第24期生 鈴木 歩 佳



4年前の春、期待と不安を胸に始まった大学生活も終わりを迎えようとしています。今振り返ると、講義に実習、部活動にアルバイトなど多くの思い出があり、充実した4年間でした。

この4年間で医療や看護に関する知識・技術を得るだけでなく、看護職として大切なことを学ぶことができたと思います。実習では、自身の立てた看護計画や行動一つ一つが対象者に影響を与えることを学び、看護を行うためには広く深い知識を持つこと、事前の綿密な準備が重要であることを痛感しました。

また、大学生活を送る上で多くの方に出会い、支えて頂きました。楽しいことだけでなく、大変なことや辛いこともたくさんありました。それでも乗り越えることができたのは苦楽を共にした同級生や保健師課程の9人、応援の言葉や差し入れをくれた部活の先輩・後輩、いつもそばで見守ってくれた家族のおかげです。この4年間での出会いは一生の宝物ですし、これからも大切にしていきたいと思います。

そして、新型コロナウイルスの影響で断念することも多かったと感じます。しかし、制限がある中でもほとんどすべての実習で病院や施設に直接出向くことができたり、4年生で東医体に参加することもできました。大学の職員の方々や先生方、関係各所の方々のご尽力により、このような状況でも学びを深め、たくさんの思い出を作ることができたのだと思います。このような環境で過ごせたことは幸運であったと感じています。

入学時には長いと思っていた4年間はあっという間でした。嫌だと思っていた実習も今思うとかけがえのない経験です。在校生の皆さんにも、今しかできない経験をとことん楽しんで大学生活を送ってほしいと思います。

卒業後は初めての土地で保健師として働きます。4年間での学びを糧に就職後もその土地を知り、人を知り、様々なことに関心を向けて学びを深め、地域に根差した保健師になれるよう精進して参ります。

最後になりますが、これまでお世話になったすべての方に心より感謝申し上げます。

卒業にあたって

看護学科第24期生 飛弾野 あい



旭川医科大学に入学してから早くも4年の月日が経ち、卒業を迎えることとなりました。振り返ると、4年間で沢山の経験・出会い・学びがありました。

1年生の頃は、課題や演習の大変さを痛感し、勉強・部活動・アルバイトの全てをこなすのに必死でした。グループワークやディスカッションを行う機会が多く、大人数の中で自分の意見を上手く伝えられないことが課題だと感じながらも、看護・医療における連携や協調性の重要性を学びました。

2年生になると、新型コロナウイルス感染症の影響でオンラインでの授業が中心となり、部活動も制限されて生活が一変しました。最初は授業形態が変わることに不安を感じましたが、バスで往復2時間かかっていた通学の時間を予習・復習に費やすことができ、より勉強に集中できるようになりました。

3年生になると本格的な実習が始まり、これまでの学習が実践に繋がったことで、疾患・治療・看護に関する幅広い知識・技術の必要性を強く実感しました。4年生の総合実習では、将来携わりたいと考えていたがん看護を臨床の場で学ぶことができました。がん患者は様々な不安・悩み・恐怖を抱えながらも生活しているため、積極的にコミュニケーションを図り、必要時は他職種の協力を得ながら、患者さんが退院後に安心してその人らしい生活を送れるよう支援することが重要だと学びました。

この4年間、将来などへの悩みや不安を抱えることもありましたが、私のことを理解してくれている家族や友人から前向きになれる言葉を、先生方や仲間から自信に繋がるような客観的な助言を、受け持ちの患者さんから「これからも頑張ろう」と思える嬉しい言葉を頂いたおかげで、私は頑張りが続けることができました。

4月からは看護師として勤めますが、他のスタッフと連携・協力しながら、患者さん1人ひとりに寄り添える看護師となれるよう、日々自己研鑽に努めていきたいと思えます。

最後になりますが、4年間私を支えてくださった全ての皆様に深く感謝申し上げます。

卒業にあたって

看護学科第24期生 宮本愛未



私が旭川医科大学に入学してから、早くも4年の月日が経ちました。卒業を迎えた今、大学生活を振り返ると、様々な人に出会い、支えられたかけがえのない時間となりました。

入学当初は聞き慣れない専門用語や看護技術、膨大な課題に圧倒され毎日を過ごしていました。何度も挫けそうになりましたが、その度に先生方に知識・技術・看護観を御指導頂き、仲間とも切磋琢磨しあうことで徐々に看護の道へ進むことの楽しさを感じるようになりました。その矢先、新型コロナウイルス感染症が蔓延し、オンライン講義や隔日実習等の制限を余儀なくされました。そのような環境においても、親身にご指導くださる病院スタッフの皆様はもちろん、患者様やその御家族から多くのことを学ばせて頂きました。人とつながることが難しい世の中になったからこそ、対象者の方に温かさを感じてもらえるような看護職になりたいと思うようになりました。

私は3年生までの講義や実習を通して、公衆衛生看護学に興味を持ち、保健師を志すようになりました。保健師課程での市町村実習では、住民の健康を守るために、住民のセルフケア能力を生かす支援の必要性を学びました。

充実した4年間でしたが、辛い時期もありました。そのときに、同期の仲間や家族から温かい言葉をかけてもらい、支えてもらいました。特に、保健師課程を一緒に乗り越えてきた9人には感謝の気持ちを伝えたいです。卒業してからも、このつながりを大切にしていきたいです。

私は、4月からは市町村保健師として勤めます。地域住民が生き生きと暮らしていくことを少しでも支えられるように、これからも精進していきたいと思えます。

最後になりますが、4年間私を支えてくださったすべての皆様に深く感謝申し上げます。今までありがとうございました。今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。



退任にあたって

旭川医科大学
社会医学講座（衛生学・健康科学分野）
名誉教授 吉田 貴彦

私が、21世紀の初日2000年1月1日に旭川医科大学に赴任して早くも23年余が経ち、3月に退職の時を迎えました。

私が東海大学医学部を卒業した当時は臨床研修が必修でなかったもので、すぐに大学院に入り研究を始めました。所属してきた教室・講座の名前は、前任地の東海大学での衛生学から環境保健学、そして本学でも衛生学から2003年の大講座化を期に健康科学さらに2017年に社会医学と変わりましたが、予防の観点からヒトの生命・健康を^{まも}る医学である社会医学の道を40年間にわたって歩んできました。最終講義のタイトルを、「社会医学とともに歩んだ40年～学問としての医学と実践の場としての社会のはざままで～」としたことからお分かりの様に、社会医学は社会とそこに住む人々とのつながりが強い領域です。

私は研究を遂行するにあたって実験系の衛生学領域での主な研究手法である毒性学（人の健康に影響する因子を有害性の観点から評価する）を用いてきましたが、用いる生体指標は既に確立されたものが多く、生体反応の詳細な機序の解明を行うといった最先端の研究と異なり新奇性が高いとは言えませんし、なおかつXXは良くないなどネガティブな研究をしているような^{おいめ}負目を漠然と感じていました。こうした思いが、地域の産業界や住民の方々から地域の特産品や地域に根差した技術の優位性の検証についての協力依頼を受けた際に、地域連携などの形で「健康に良いもの」の評価研究を始める原動力になったと考えています。2008年に大学コンソーシアムである旭川ウェルビーイング・コンソーシアム（AWBC）の設立にかかわりましたが、ここにも同様の考え方が反映されています。旭川圏域に豊富にある医療施設や保養資源を有効に活用して地域の人々の健康度を高めるとともに地域を活性化する事と合わせて、WHOの良好な健康状態を示すwell-beingの名を冠したコンソーシアム名称としました。私が教育、学術研究と並行して、旭川圏域の様々な方々や団体あるいはAWBCを介しての協働活動や共同研究を行ってきた際に、モットーとしてきた「人々の健康作りは街造りにも通ずる」は、地域社会との関連のなから独自に着想したものと思っておりましたが、振り返ってみるにWHOのオタワ憲章の考え方を反映して2000年に始まった第三次国民健康づくり

運動「健康日本21」の行動戦略の特徴である「国民に健康に関する情報提供をするのみならず、健康づくりのための環境整備を行う」事と呼応しています。しかし、健康日本21の開始当時には、運動型・温泉利用型・温泉利用プログラム型の3類型の健康増進施設などの個別の環境整備が進んだ程度でした。2010年頃になってスマートウェルネスの概念『健康で元気に過ごすことは「社会貢献」である』が地方自治体の間に広まり、「地域の担い手の住民が主体的に自らの健康維持に取組み社会参加することで元気に幸せに暮らせる地域づくり（健幸）」を基本とした街造りを推進する機運が高まりました。旭川市でも2022年度に検討懇談会が設置され私が座長を務めました。最近では、環境整備の一環として「街造り・街興し」が位置付けられ、住民の歩行や身体活動度を高める工夫など健康維持に資するデザインが都市計画に組込まれるまでになっています。そして、衛生学や公衆衛生学の年次総会でも取り上げられるようになったことは嬉しい限りです。旭川市で開催した第86回日本衛生学会学術総会（2016年）の前年に和歌山市にて次期学会長講演として行った「地域資源を活用した健康増進と地域貢献」が少しでも役に立ったかもしれません。

本学は第2期中期目標期間にミッションの再定義にて「地域医療人材の育成」を掲げ、第3期中期目標期間に3つの重点支援の枠組みにおいて「地域のニーズに応える人材育成・研究を推進」を選択しています。広大な北海道の地域に貢献する地域医療人材を育成するとともに、強み・特色のある分野で世界・全国的な教育研究を推進する取組が求められています。本学の特性から医療人材育成は当然のこととして、「地域のニーズに応える」を広く考えた地域貢献が求められているものと思います。本学が健康にかかわる学問を専門としている事から、地域の保養資源を活用した住民の健康度の向上を通しての地域貢献が進められ、旭川圏域を中心に北海道に無くてはならない大学として頼られる存在であり続けることを願っています。



定年退職のご挨拶 — これまでを振り返って —

旭川医科大学 一般教育 心理学

名誉教授 高橋 雅 治

2023年3月末をもって旭川医科大学を定年退職いたします。思い起こせば1999年春に心理学教授の公募があり、同年12月に久保良彦元学長より辞令を拝受いたしました。それから23年間以上にわたり恵まれた環境のもとで研究や教育に従事することができました。これまで支えていただいた皆様に心より感謝申し上げます。

澄み切った青空に映える大雪の山々を眺めながら資料を整理をしていると、本学に赴任してきた当時が懐かしく思い出されます。前任地の北大では、助手を12年以上勤めていました。その頃は、講座運営の職務に追われながらも、志を同じくする院生達と共に研究に集中することができました。その甲斐もあってか、本学への赴任が決まった頃には3件の科研費が同時に採択されていました。

一つめは毎年の基盤研究で、さらに二つめとして国際学術研究も採択されました。こちらは研究旅費がメインの大型の科研費で、これが採択されてからは、国内の研究者を派遣するための書類を作ったり、海外の研究者を成田まで迎えにいきシンポジウムを開催するような生活が始まりました。さらに三つめとして、旧科学技術振興事業団の「さきがけ研究21」の個人研究員に採用されました。こちらは研究者にとっては至れり尽くせりの科研費で、潤沢な研究費に加えて給与も支給されました。その一方で、半年ごとに会議に呼ばれて進捗状況を報告するなど常に厳しい評価システムにさらされていました。

本学に赴任し、これらの研究活動と併行して、講義や実習を担当することになりました。医学部の教育に携わり最初に感じたことは、教育が医療に直結していることがもたらす緊張感でした。たとえば、学生達に的確な知識や技能を伝授することができれば、卒業後に彼らが従事する仕事の質を上げることにつながります。逆に、授業内容の不備は、立ち所に良くない結果をもたらすでしょう。最初の頃は、医療現場での応用を念頭におきながら基礎科学の知見を平易かつ正確に伝えるべく試行錯誤を重ねました。その結果、何をどう教えれば良いかが次第に見えるようになり、医学教育に大きなやりがいを感じるようになりました。

特に実習については、蒔田芳男先生、阿部泰之先生、佐藤伸之先生をはじめとする諸先生方の強力な支援を得て、心理コミュニケーション実習（医学科第1学年）という実践的な実習を作り上げることができました。この実習は、行動科学的な素養を深めるための実験実習から始まります。次にカウンセリング実習に移行し、心理的な問題を抱え

る患者さんと接するためのスキルを身につけます。続いてユマニチュードの実習が始まり、認知症の患者さんとの接し方を学びます。ちなみに、ユマニチュード実習は、8年前に本学が本邦の医学部として初めて導入しました。そして最後の模擬患者さんの実習において、それまでに学んだコミュニケーション・スキルの統合的な運用を目指します。これらの実習内容は学生から毎年高い評価を得ており、「コミュニケーション・スキルの向上を実感できた」というようなポジティブなコメントが多数寄せられます。

不思議なことに、教育の改善に熱中しはじめると同時に、研究面でも自分の社会的な役割が少しずつ変わり始めました。気がつけば、自分の研究に使う時間が減り、かわって論文の審査や編集のような仕事が増え始めました。さらに、科研の審査委員も毎年まわってくるようになり、気がつけば、若手研究者を励まし今後の方向性を示すような仕事に大きな充実感を感じるようになっていました。

この頃、若い頃から温めてきたある計画の実行に着手しました。それは、英語文例集の出版です。院生時代に初めて英語で論文を書こうとした際に、人文科学系の論文執筆に役立つ英語文例集がないことに気づきました。その時から、いつか人文科学系の英語文例集を出版したいと思うようになりました。

幸い、論文執筆の入門書を共同で執筆したことのあるアメリカ人発達心理学者のシュワープ夫妻の協力を得て、心理学分野の英語文例集の執筆に着手することができました。しかし、英語文例集の執筆は、そう簡単ではありませんでした。最初に、シュワープ夫妻が有用な文例を集めます。次に、自分がその中から文章パターンを抜き出し、さらに全体を日本語に翻訳します。その後、関連する研究文献をあれこれと調べて、日本語訳の妥当性を再度検討します。結局、1週間に数点程度の文例を完成させるのがやっとで、1,300点程の文例をまとめるのに10年近くかかってしまいました。

幸い、この本は、人文科学系の若手研究者の間で好評を博することができました。昨今の国際情勢をみると、人文科学系の研究成果を世界の人々が直ぐに読める形で出版しておく必要性が、これまでになく高まっていると感じます。今はこの文例集を出版しておいて本当によかったと思っています。

顧みると、旭川医科大学に採用された時が、人生の大きな節目でした。当時はそんなことには全く気づかず、眼前の課題を真摯にこなすのに精一杯でした。

定年は、人生の最も大きな節目のひとつに違いありません。実際、自分を取り巻く状況はこれから大きく変わるでしょう。しかし、正直なところ、心の中は今も実験や実習のアイデアで一杯で、研究や教育に限って言えば、節目を迎えるという実感はそれほど強くありません。定年後しばらくは、放送大学の客員教授として研究や教育を続けていこうと思います。いつか振り返った時に、また違った風景が見えてくるのでしょうか。本学での充実した日々を支えてくれた皆様、長い間お世話になり本当にありがとうございました。



退職にあたって — 回想43年 —

旭川医科大学 一般教育 生物学
教授 立野 裕 幸

本年3月31日に定年退職を迎えました。1983(昭和58)年10月に旭川医大生物学教室の教務職員に採用され、講師(1992年)、助教授(1994年)、准教授(2007年)そして教授(2008年)になって退職するまでの39年6カ月、教育と研究に携わってきました。弘前大学卒業後に生物学教室の研究生だった3年半を加えると、旭川医大で過ごした期間はちょうど43年になります。長い間本当にお世話になりました。

生物学教室は、哺乳類配偶子における染色体異常の生成機序および放射線や化学物質の遺伝的影響に関する研究を専門としています。その研究のために、教室では、90年代中ごろまで実験動物としてチャイニーズハムスターを生産し、旭川コロニー(CHA)として維持していました。CHAには自然発症糖尿病の系統もあって、学内の臨床講座に動物を供給していたことがあります。学生実習にも利用していたので、ハムスターは多くの卒業生の記憶に残っていると思います。

研究生になって2年目に、初代教授の美甘和哉先生のご指導により、マーカー染色体を持つハムスター家系の確立と応用に関する論文を国際専門誌に発表することができました。その時の達成感は研究活動の原動力となり、その後の広島大学医学部での博士号取得および染色体学会牧野賞の受賞につながりました。

教室には、これまでに国内外56の大学/研究機関から延べ110名を超える学生、研究者、医師が研修に訪れています。その交流のおかげでミネソタ大学(Charles Louis教授)とハワイ大学(柳町隆造教授)へ留学する機会を得ました。国内では、広島大学医学部原爆放射能医学研究所、京都大学原子炉実験所、青森県の環境科学技術研究所との間で共同研究を行い、各種放射線の生物影響について理解を深めました。学内では、光栄にも初代学長の山田守英先生が学長退任後に始められたがん細胞の研究を手伝わせていただきました。先生の研究に対する情熱に圧倒されたものです。

社会貢献として、放射線医学総合研究所を中心に設置された、原子力事故が起きたときに線量推定を行う染色体ネットワーク会議の委員を11年間務めました。任期中に福島第一原子力発電所事故があり、その対応をめぐって大いに議論したことを思い出します。海外では、高自然放射線地域であるインド南部ケララ州の住民の健康調査に参加し

ました。ケララ州は教育に力を注いでおり、インドの中で識字率が最も高く、幼児死亡率は最も低い州です。遠いインドの地において、教育は医療を支えることを再認識しました。調査はその後にも他の研究者によって続けられましたが、健康被害は認められていません。

一般教育の教員として、初年次教育には研究以上に時間とエネルギーをかけて取り組んできました。『学生には良いものを与えよ』というのが教室の教育方針で、学生だからといってレベルの低いものを与えるのではなく、学生だからこそレベルの高いものを与えて教育すべし、という考えです。そのためには教育する力も必要です。教壇に立つて間もない頃は知識不足のために学生の質問に答えられず、講義の途中で立ち往生することもありました。また、早口で聞き取りにくい、「え〜」が多くて気になる、と指摘されたことも。そのため、講義の前には十分に下調べをし、リハーサルをして講義室へ向かったものです。これまでに講義・実習で出会った学生は6000名に達しています。嬉しいことに、学生からは概ね「良」の授業評価をもらうことが多く、少しは旭川医大の教育に貢献できたと思っています。

大学キャンパスの樹々は大きく成長しています。開学して間もない頃は植樹してもすぐに枯らしてしまうことが多かったようで、「樹を育てられずに医師を育てられるのか」とお叱りを受けたとか。今は逆に枝が伸び放題になっているところが見られます。誰の目にも美しく映るキャンパスであってほしいと願っています。

最後になりましたが、教員の皆様、技術支援部門の皆様、事務局各課の皆様から多くのご支援ご協力を賜りました。心より感謝申し上げます。



退職にあたって

旭川医科大学 看護学講座

名誉教授 服部 ユカリ

私が旭川医大に着任したのは平成15年4月でした。出身は島根県ですが、千葉大学看護学部を卒業後千葉大学大学院修士課程に進み、修了後は看護師、保健師として京都市や愛知県、東京都などで勤務し、平成7年から富山医科薬科大学医学部看護学科講師、平成11年から山形大学医学部看護学科教授を勤めた後に本学に参りました。山形大学にいたときに学生から、先生はだんだん北に移っているから最後はサハリンまで行くのではないですかといわれました。その時は、もうこれ以上北には行きませんよと言って笑ったのですが、その2年後には北上して旭川で20年も生活しているのですから人生はわからないものです。何年たっても冬の長さや寒さには慣れませんが、今日まで旭川で住んでいられるのは、他所から来た人を拒まない北海道の地域性のおかげもあると思っています。

私が来ましたのは、看護学科設置8年後のことで、大学院修士課程の教育も始まっており、本学の看護教育の基礎がほぼ固まっていた時期でしたが、その後、社会情勢の変化に伴う保健師助産師看護師法指定規則の変更による何度かのカリキュラム改正がありました。看護学科の良いところは、カリキュラムの改正について、教員全員が課題を共有して、新しいカリキュラムを作り上げるところです。私が力を入れたのは、専門分野である高齢者看護学の講義・演習・実習の改善の他、認知症ケア論を科目として取り入れたことです。また、平成24年度のカリキュラム改訂において、初めてリハビリテーション看護論を科目として導入し、大学病院のリハビリテーション科や看護部のご支援を得て教育の充実を図ることにつとめました。2019カリキュラムからは、地域包括ケアの構築が求められる社会情勢に呼応して、看護学科の各学年に地域包括ケア論の講義を、第3学年に地域包括ケア実習を導入し、学生が地域活動に参加し、住民や専門職から直接学ぶことにより主体的学習能力や地域に貢献する意識を涵養する教育を看護学科全体で推進しました。

大学院教育では、就任以来、高齢者看護学領域の特論・演習・特別研究を担当し、さらに平成29年には専門看護師を育成する高度実践コースに高齢者看護学領域を立ち上げました。平成15年からこれまでに、指導教員として老人看護専門看護師コース4名

を含む30名の修了生を輩出しました。

研究活動では、高齢者が主体的に活動を継続できる介護予防プログラムの開発を目標に、写真が高齢者の心身にもたらす効果を調査し、写真を活用したフォトボイスの手法を介護予防に用いたプログラムを開発しました。また、他機関の看護職との連携強化方法を開発するため、大学病院看護部、遠隔地の訪問看護ステーション等と共同研究を行いました。

社会貢献活動旭川医科大学公開講座として「認知機能向上教室」を平成27年度～令和4年度にかけて6年間企画実施したことや平成18年以後、派遣講座・北海道メディカルミュージアム等として自治体、高等学校、病院・施設で78件の講演・セミナーを行ったのも良い思い出です。平成28年からは、学長補佐を務め、令和3年10月からは、医学部看護学科長、大学院修士課程看護学専攻長として、看護学科の教育研究の企画調整、運営に携わらせていただきましたが、令和4年度受審の看護学教育評価では「適合」評価取得のために先生方、事務局の方と一緒に課題解決に取り組んだことは印象に残っています。

また、第3期中期計画の機能強化に向けた戦略立案に参画し、「地域包括ケア支援システム構築」の実施担当者として、地域の自治体、住民組織等との協力関係確立に努めました。さらに、平成31年3月に看護職キャリア支援センターが創設され、同センター長として看護学科と大学病院看護部の連携・協働体制を強化し、看護学科学生から大学病院や地域の看護職まで地域包括ケアを担う人材の資質向上に係わることができたのは望外の喜びでした。

サハリンにまでは至りませんでした。最北の国立大学法人旭川医大で定年まで無事に勤めることができ安堵しております。先生方や、事務局の皆さま、地域の多くの方々のこれまでのご厚情に心より感謝申し上げます。

令和4年度退職に伴う最終講義が行われました

令和5年3月31日をもって本学を退職される3名による最終講義が実施されました。講義では、長年にわたる教育・研究活動などを振り返りながら想いを込めて語られました。

各講義とも会場とリモート接続を合わせて多くの学生や教職員の他、大学関係者などが熱心に聴講していました。講義終了後には、感謝の思いを込めて花束が贈呈され、大きな拍手が送られました。

先生方のこれまでのご尽力に、学生、教職員、卒業生一同心から感謝するとともに、今後のご活躍とご健勝をお祈りいたします。

《社会医学講座(衛生学・健康科学分野) 吉田 貴彦 教授》

講義題目：社会医学とともに歩んだ40年

～学問としての医学と実践の場としての社会のはざままで～

開催日時：令和5年3月14日(火) 15:30から



《看護学講座 服部 ユカリ 教授》

講義題目：看護学40年

開催日時：令和5年3月16日(木) 15:30から

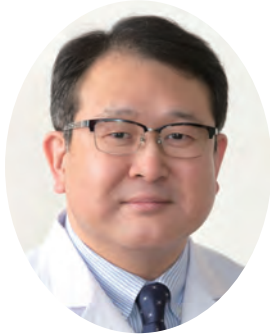


《心理学 高橋 雅治 教授》

講義題目：行動分析学の方法論的有用性と応用可能性

開催日時：令和5年3月20日(月) 15：30から





教授就任のご挨拶

旭川医科大学 小児科学講座
教授 高橋 悟

2023年1月1日付けで、小児科学講座の第5代教授を拝命しました。私は、1990年3月に本学を卒業（12期）し、直ちに小児科学講座に入局しました。小児科学の基礎を学ぶ過程で、神経疾患の治療の困難さを痛感し、小児神経学を専攻することに決めました。1998年から2年間は国立精神・神経医療研究センター神経研究所へ、2000年から5年間は米国国立衛生研究所（NIH）へ留学し、神経疾患の分子病態の研究に従事しました。このように7年間の留学を除きますと、大学卒業後の殆どの期間を本学でお世話になってきました。旭川医科大学は、今年で開学50周年を迎えます。この記念すべき節目の年に母校の教授として小児科での診療・教育・研究を主導する立場に就き、責任の重さを感じております。

近年の小児医療を取り巻く環境では、少子化が進み、疾病構造に大きな変化がみられます。一方で、革新的な医療技術の進歩とその臨床応用はかつてないスピードで進んでおり、私達はこれらの変化を的確にとらえ対応することを求められております。少子化の勢いは止まる所を知らず、私が本学を卒業した1990年の北海道における年間出生数は54,428人でしたが、2021年には28,761人となり、この30年間で半減しております。一方、生後すぐに医療的サポートを必要とする低出生体重児の割合は9%前後で推移しており、ここ10年間は変化がありません。医療技術の進歩はめざましく、新生児および乳児の死亡率はさらに低下する傾向を示しています。もちろん、私達は後遺症なき生存を目指した努力をしておりますが、退院後も在宅で継続的に医療を必要とするお子さんは増加しているという現実があります。このような医療的ケア児は、この10年間で2倍に増えており、外来あるいは在宅での医療需要の高まりを感じています。また、ワクチンの普及により細菌感染症は激減するなど、疾病構造も大きく変化してきました。小中学校に在籍する児童生徒数は、少子化の影響を受けて減少しておりますが、特別支援を必要とする児童生徒数は増加傾向にあり、全児童生徒のおよそ10%は神経発達症としての支援が必要との報告もあります。さらに、不登校状態にあるお子さんの数も増加の一途をたどっており、令和元年の文部科学省からの報告によりますと50人に1人が不登校状態にあることが明らかにされています。このような変化をうけて、国は令和

5年4月から「こども家庭庁」を創設し、子どもに関する取り組みを社会の中心に据え、異次元の規模で強力で推進することを決めました。子どもたちの代弁者である我々小児科医の果たすべき役割も、益々大きくなると認識しております。

もう一つの大きな変化は、遺伝子解析技術等の進歩により、小児期に発症する様々な疾患の病因遺伝子・分子病態が明らかになってきたことです。対症的治療が主であった難治性疾患の子どもたちが、“Care”から“Cure”を目指せる可能性が出てきました。本学でも、今年2月に遺伝性神経変性疾患の新生児に対して、ウイルスベクターを用いた遺伝子治療が行われました。新生児マスキングで見つかったお子さんに対する早期治療は、北海道では初めての試みでありました。このように医療技術の進歩はめざましく、標準的レベルになった治療を、必要とするすべての子ども達に遅滞なく提供することも私達の責務と考えております。そして、いまだ未解決の問題に遭遇している子ども達とその家族がいることを忘れずに、皆が困難の中に光を見出すことができるよう努力を続けて参りたいと思っております。

今後は、道北およびオホーツク医療圏における周産期医療・小児医療を守りつつ、次に活躍してくれる後進の教育に力を注ぎたいと思います。また、研究の活性化を通して、診療と教育レベルの維持・向上を目指し、旭川医科大学の発展に貢献したいと思っております。今後とも、変わらぬご指導ご鞭撻のほどをどうぞよろしくお願い申し上げます。



教授就任のご挨拶

旭川医科大学 救急医学講座

教授 岡田 基

この度、令和5年1月1日付けで旭川医科大学救急医学講座の3代目の教授を拝命しました。当講座は、平成4年の救急部設置を経て平成14年に郷一知教授によって開講され、その後平成22年に藤田智教授が就任され、20年が経過いたしました。今年1月に救急専従医（入局者）がはじめて専門医を取得することができ、ようやく独立した講座としてのあゆみを始めたところです。

私は、附属病院に救急部が設置されたばかりの平成4年に自治医科大学を卒業し、旭川医大第一内科に入局しました。自治医大卒業生は地域医療を担う義務があり、ストレート研修が主流だった当時に、外科や小児科をローテーションし、総合診療的な立場で初期研修を行いました。診療所所長なども経験した9年間の義務年限では地域で外科的処置や応急処置を経験しました。義務年限終了後は、あらためて循環器の研修をし、心臓カテーテル検査・心臓超音波検査のほか、当時はまだ始まったばかりのカテーテルアブレーション・心臓MRI検査などを担当させていただきました。

平成18年に心臓外科医でもあった初代郷一知教授の救急医学講座で働く機会に恵まれ、心不全や術後管理など循環器救急診療を中心に学ぶ機会をいただきました。その際救急科で同僚となった外科や麻酔科など多くの先生方より刺激を受け、徐々に救急医療に魅せられていきました。

2代目藤田智教授は外傷診療や災害医療、蘇生医療を中心としたシミュレーション医学のエキスパートで、ACLSインストラクターの取得やDMAT隊員・災害医療コーディネーターなど多くの救急診療に関するプロバイダー資格の取得と蘇生教育や災害医療のノウハウを学ぶことができました。私は以前から行っていた心臓超音波検査の経験をもとに全身のPOCUS（チョイあてエコー）の魅力を学生や研修医に指導しております。

基礎研究は自治医大時代に手ほどきを受け、第一内科で血管の炎症・酸化ストレス研究で学位を取得した後、米国シンシナティ大学へ留学し、心筋再生の研究に携わることができました。救急科に異動してからは、WHOが啓発活動を行っている、世界中で毎年1000万人以上が死亡する敗血症についての研究に重点を置き、敗血症によって生じる心筋障害の研究を行っております。

救急医学講座は全国的に麻酔科・外科出身の教授が多い中、内科医の私が、救急医学講座を運営することに違和感を抱かれる方もいらっしゃると思います。しかしながら、医療技術の進歩による健康寿命の増加やがんサバイバーの増加、介護を必要とする高齢

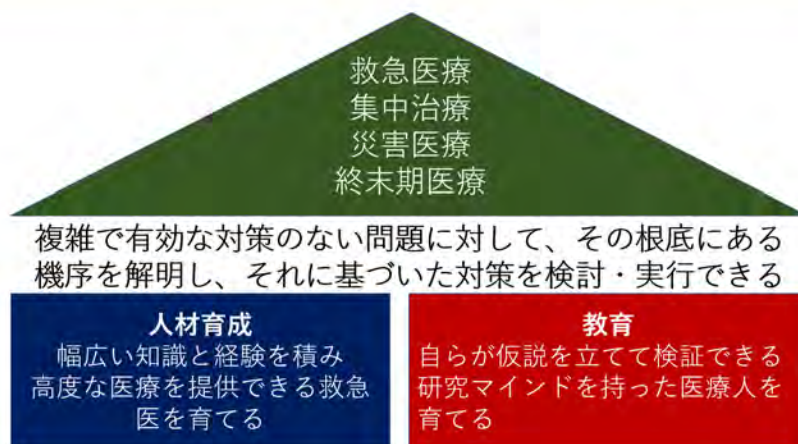
者や独居高齢者の増加など、救急医療へのニーズや役割は変化してきています。交通外傷が減って内因性疾患による搬送が増加している現在、救急医療に総合診療的な要素が求められています。実際、救急医学講座に入局している若い医師は総合診療を目指すものも少なくありません。私は今まで急性・慢性心不全を中心に診断・治療を行ってまいりました。心不全は高齢者で発症しやすく、炎症や感染症など心臓以外の原因で発症することが少なくありません。また、いったん改善しても繰り返し増悪し入院することがわかっています。団塊の世代が高齢化を迎えてからは心不全患者が急増し、地方の時間外医療体制の脆弱さと相まって救急医療はますますひっ迫することでしょう。

この度私は「持続可能な地域救急医療体制の構築」(図)をスローガンに救急医療を通して地域の診療を支えていくことにいたしました。

救急医療や集中治療はすべての診療科やコメディカルの協力があって成り立っています。また、救急医療は地域の医療機関との連携なしでは成り立ちません。緊急手術を必要とする患者の診療、多発外傷や重症熱傷、中毒疾患をはじめとした大学病院ならでの高度医療の提供はもとより、地域医療に目を向けると、独居で感染や骨折などによる体動困難の高齢者診療などの増加で急性期医療体制はまだまだ変化する余地があります。一方、院内でも働き方改革やタスクシフトなど行わなければならない案件が山積しており、大学病院のみでの診療にも限界があります。これからは、益々地域の医療機関や行政機関との連携が必要不可欠となるため、そのようなシステム作りの橋渡しができればと考えています。

大学病院は臨床・研究に加えて若手の育成も重要な要素です。私はCOVID-19がそうだったように、これからも起こり得る複雑で有効な対策のない問題に対して、その機序を解明し、それに基づいた対策を実行できるような人材育成に努めてまいりたいと存じます(図)。これからもどうか救急医学講座・救命救急センターへのご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

持続可能な地域救急医療体制の構築



第10回医学科白衣式

令和5年1月12日(木)旭川医科大学看護学科棟大講義室において、医学科白衣式を執り行いました。医学科白衣式は、臨床実習を前にした医学科第4学年の学生を対象に、これから医療者の一員として、社会に貢献する立場になることを再認識させるなど、「医師としてのプロフェッショナリズムを涵養する」ことを目的として行っています。

第10回を迎える今年度の白衣式は、新型コロナウイルス感染対策を講じつつ、3年ぶりの全員対面実施となりました。

式典では、西川学長から学生へ祝福と激励、さらに「医師としてのプロフェッショナリズム」についてお話がありました。

続く、白衣の授与にあたっては、西川学長をはじめ7名の先生方が白衣プレゼンターとなり、参加した学生1人1人に名前入りの白衣を着せました。白衣を授与された学生たちは、暖かい拍手を受けながら、白衣プレゼンターからの祝福や激励の声に笑顔でこたえる様子が見られました。

その後、西川学長から代表の学生へStudent Doctor 認定証が授与されました。Student Doctor 認定証とは医師免許を持たない学生が、診療参加型の臨床実習を行うに足る知識・技能・態度を備えていることを患者さんや実習先に証明するものです。学生たちは、これからStudent Doctorとして更なる知識や技能の習得に励みます。

式の最後には、学生たちが考えた〔47期生誓いの言葉〕の宣誓が行われました。

学生たちは誓いの言葉を胸に刻み、新たな一步を踏み出します。

〔47期生誓いの言葉〕

生命の尊厳を尊重し、真摯に医療と向き合います。

医学教育に関わる方々に感謝し、臨床実習で最大限の学びを得ます。

医療技術の向上と知識の習得のため、研鑽を積んでいきます。

チーム医療の一員としての使命を心に留め、地域に根ざした医療の向上に貢献します。

心と生涯をかけて、人々の信頼に値するよう努めます。



セミナー、講演会の開催報告 -看護職キャリア支援センター-



看護職キャリア支援センター

「第1回 外国人患者対応能力向上に向けた講演会」を開催しました



第1回は、2022年12月1日に東川町文化交流課、東川町立東川日本語学校・学校推進室マネージャー（JICA派遣）である高野悠己氏にお越し頂き「外国人留学生の医療支援を通して」をテーマにご講演頂きました。やさしい日本語で話すことや症状を伝えるオノマトペは自国の文化的背景に基づくものであるため、外国人患者さんには伝わりにくいなど、具体的ななかかわり方のポイントを知ることができ、今後の外国人患者さんとのなかかわりに活かしたいと感じました。ご講演頂いた高野悠己先生、日々の医療相談や留学生とのなかかわりのご経験から、実際の医療現場に反映できるような具体的ななかかわり方の工夫などをわかりやすくお話し頂き、ありがとうございました。心より感謝申し上げます。

※詳しい様子はホームページに掲載しています。 <https://www.asahikawa-med.ac.jp/ncsc/archives/6410>

「キャリアデザインセミナー」を開催しました

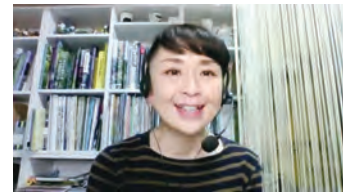
2022年10月17日、Liezou カウセリング&コンサルティングの中川貴美子先生にお越し頂き「認知行動療法を応用したストレスマネジメント～「考え方」を考える」をテーマにセミナーを開催しました。セミナーは講演とワークショップの二部構成で、講演では「ストレスのしくみ」「ストレスを感じやすい思考パターン」や「不適応を起こしやすい思考の特徴」について教えて頂きました。ワークショップでは、参加者2～3名がグループを作り、思考パターンアセスメントシートを用い、自分に起こった出来事・状況を題材に交流しました。参加者は自分のことを話し、メンバーからアイデアをもらい、活発で笑いの絶えない和やかなワークショップとなりました。



※詳しい様子はホームページに掲載しています。 <https://www.asahikawa-med.ac.jp/ncsc/archives/6048>

「学生と看護職セミナー（二輪草セミナー）『花ひらく可能性』を開催しました

学生と看護職セミナー（二輪草セミナー）では、キャリアや生きがい、自分らしく生き活き働くためのキャリアデザインを考えることを目的とし、旭川で活躍されている方をお招きしての講演を企画しています。今年度は、ガーデニングの聖地として有名な上野ファームの上野砂由紀（さゆき）先生を講師としてお迎えし、2022年12月6日、「花ひらく可能性」というテーマでご講演いただきました。雪解けから芽吹く山野草の静かな佇まい、可憐さともにもあるいのちの強さ、短い開花の潔さとそれゆえに感じられる季節の移ろい、同じ時季に同じ場所で出会える期待と喜びなど、山野草や宿根草の魅力を十分に感じる事ができました。同時に、人生、生き方などを考える機会になりました。どうしても閉塞感を感じてしまう今、心温まる時間でした。上野先生、素敵なお話をありがとうございました。



※詳しい様子はホームページに掲載しています。

<https://www.asahikawa-med.ac.jp/ncsc/archives/6326>

「第6回 先輩看護師と行う看護技術スキルアップトレーニング」を開催しました

令和5年3月3日（金）、「先輩看護師と行う看護技術スキルアップトレーニング」を開催しました。この学習会は、卒業・就職を控えた4年生が旭川医科大学病院に所属する先輩看護師と看護技術を練習し、安心して就職できるよう基礎看護学領域で開催していたものですが、今回の第6回から、看護職キャリア支援センターのキャリア支援部門が引き継いでいます。今年は、4年生3名、3年生1名の計4名が参加し、採血、点滴、吸引、持続的導尿の4つの看護技術についてトレーニングを行いました。技術ごと4つのブースに分かれ、所要時間20分で各ブース担当の先輩からマンツーマンでご指導いただき、次のブースへ移動する形式でした。先輩看護師の方々は、様々な質問に丁寧に対応され、それに触発されて学生の皆さんも時間を忘れて熱心に取り組んでいました。先輩は、日頃、臨床現場で活躍されている方々ですので、技術と同時にコミュニケーションのコツなども加わり、より具体的で実践的な内容となりました。練習後は交流の場を設け、先輩からは、学生時代の実習中のエピソードが伝えられたり、学生の皆さんは就職にあたっての不安や疑問などを相談する機会となり、終始笑い声が絶えず和やかなひとときでした。最後は、先輩の方たちから学生へのエールで締めくくられ、学生・先輩看護師双方にとって、とても有意義な時間となりました。来年度もぜひ、多くの学生の方の参加をお待ちしております。

※詳しい様子はホームページに掲載しています。 <https://www.asahikawa-med.ac.jp/ncsc/archives/7318>



学 生 表 彰

本学では課外活動、社会活動、学術研究活動等で特に顕著な成果をあげた学生及び学生団体に学生表彰を行っています。

令和5年3月24日(金)学生サロンにおいて、医学科第6学年 田村 ゆき穂さんへの学術研究活動で活躍したことによる学生表彰が行われ、西川学長から功績を称えて表彰状が授与されました。

==学術研究活動による表彰==

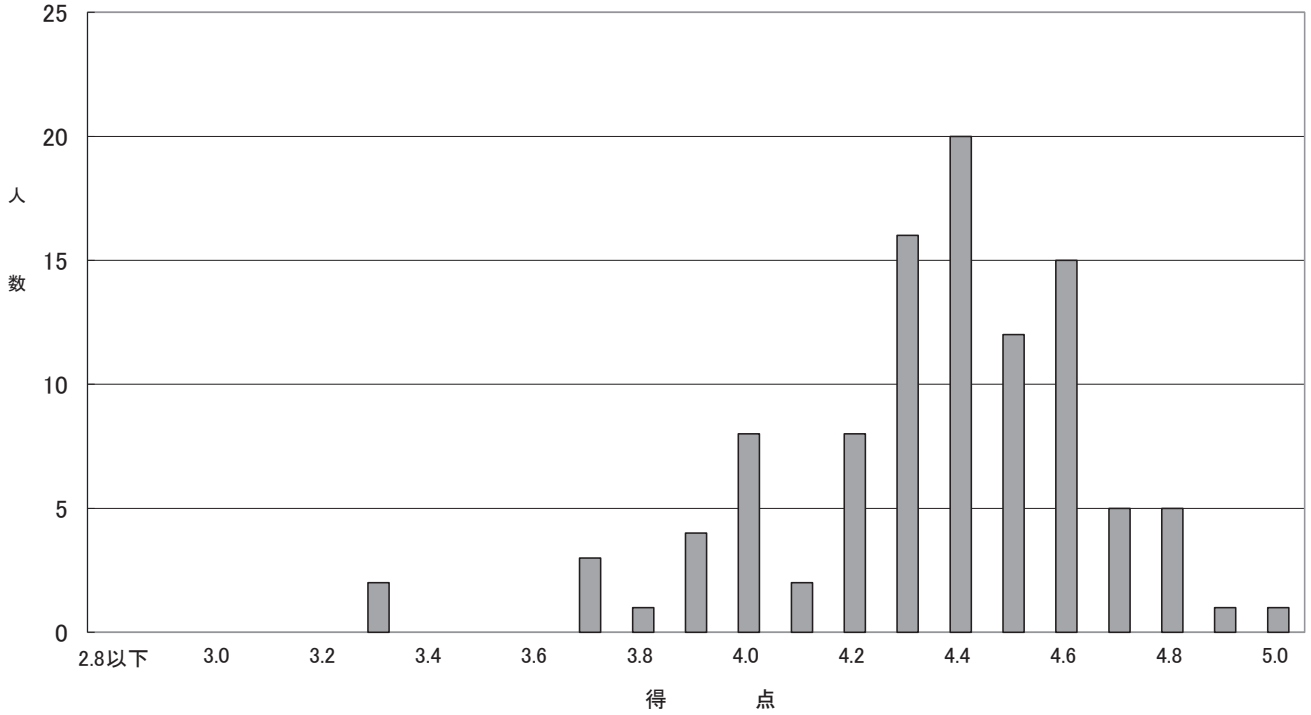
氏名	功績
医学科第6学年 田村 ゆき穂	令和4年4月14日～16日に開催された第111回日本病理学会総会において、「学部学生ポスター」のセッションで「免疫チェックポイント阻害薬を含む化学療法著効後に脳転移をきたしたSMARCA4-deficient肺癌」の症例を発表し、そのポスターが「学部学生ポスター優秀演題賞」に選出され表彰された。



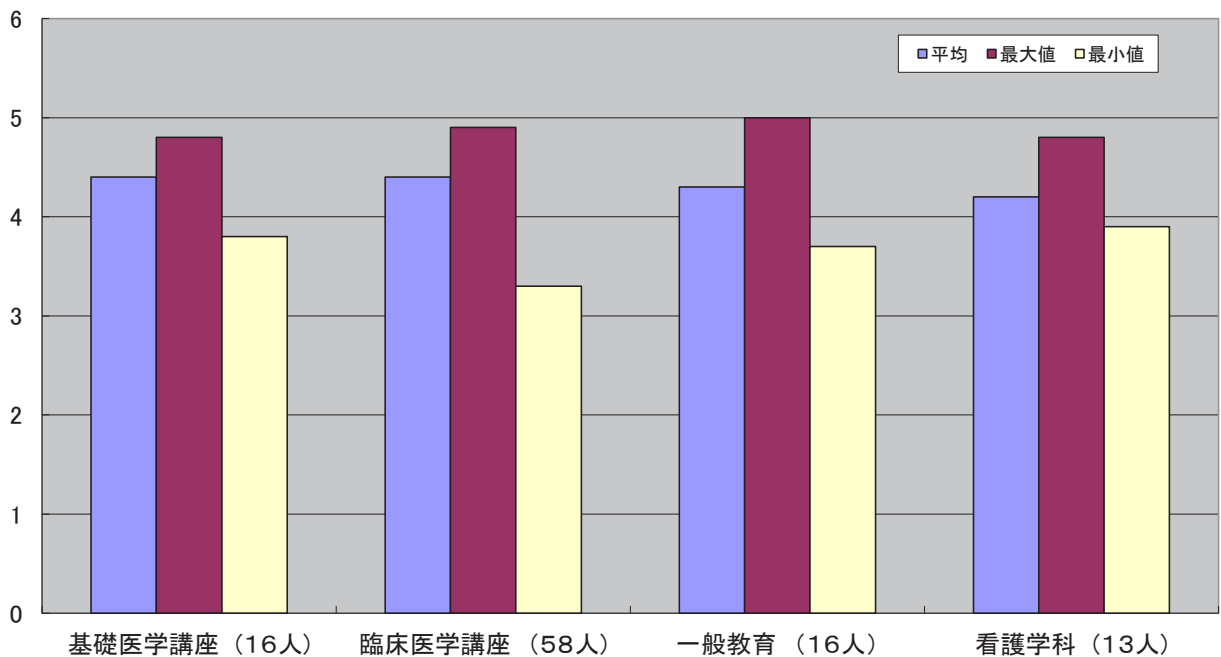
2022年度前期「講義に対する学生評価」における全教員の得点分布

人数	得点																						
	2.8以下	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	4.7	4.8	4.9	5.0
						2				3	1	4	8	2	8	16	20	12	15	5	5	1	1

(実施人数103・平均4.3)



部局別教員の平均点と最高・最低点



2022 年度前期「企画に対する学生評価」

科目全体の講義企画に対する学生評価

あなたの履修態度・理解度について	問1 事前に教科書や講義資料を読むなど予習をしましたか。
	問2 この科目はどのくらい理解できましたか？
	問3 授業の復習を毎回しましたか。
目的の達成	問4 科目の一般目標を達成することができましたか。
科目内容	問5 あなたにとって科目全体の難易度は適切でしたか。
総合評価	問6 この科目は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強く思う (非常に良い)
 ④ やや思う (良い)
 ③ どちらとも言えない (普通)
 ② あまりそう思わない (あまり良くない)
 ① 全くそう思わない (良くない)

科目名 : 自然科学入門 (物理系) (医学科第1 学年前期/選択必修)

履修者数 : 24 配付数 : 24 回収数 : 23 回収率 : 95.8%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.8	3.3	3.7	3.6	3.5	3.8

*評価に対するコメント

自然科学入門 (物理系) 担当教員

今年度と同じく対面形式であった令和元年度と比較して、総合評点は3.8のまま変化しなかったものの、予習と復習の項目はそれぞれ1.0ポイント、0.6ポイント上昇した他、目標への到達度の項目も0.3ポイント上昇している。これらは、manabaを通じた講義資料の事前配布による学習効果であろうと思われる。また、講義方法を板書からスライドに置き換えたことにより演習時間を多くとることができたことも良い効果を生んだと思われる。来年度に向けて資料の内容等さらなる調整を進めたい。

科目名 : 自然科学入門 (生物系)

(医学科第1 学年前期/選択必修)

履修者数 : 71 配付数 : 71 回収数 : 69 回収率 : 97.2%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.1	4.1	3.4	4.0	4.1	4.5

*評価に対するコメント

自然科学入門 (生物系) 担当教員

本科目の目的は生物学の基礎知識や思考力を身につけることです。講義は対面とZoomを併用し、1コマ60分のうち講義を30~40分、質問対応を10分とし、残りを小テストとしました。質問は最初の2コマ以外は毎回あり活発でした。総合評価 (4.5) に関しては、アンケートが実質実名式なので、学生は低評価をつけづらかったのかもしれませんが。引き続き、講義のブラッシュアップを続けていきたいと思っております。

科目名 : 初年次セミナー

(医学科第1学年前期/必修)

履修者数: 95 配付数: 95 回収数: 87 回収率: 91.6%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.5	3.9	3.1	3.8	3.8	3.9

*評価に対するコメント

初年次セミナー 担当教員

今回初めて実施した科目でしたが、満足度3.8(回収率95.8%)となりました。アカデミックライティングを中心として様々なスキルを紹介しました。上級学年での学修を進めていく上で役立ててくれることを期待します。次年度は皆さんの意見も参考にしてブラッシュアップを行なっていきます。

科目名 : 地域医療学

(医学科第1学年前期/必修)

履修者数: 95 配付数: 95 回収数: 57 回収率: 60.0%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.6	4.2	3.2	4.1	4.2	4.2

*評価に対するコメント

地域医療学 担当教員

授業の満足度は4.2と高く、実際に地域医療に従事している講師の話をお聞かせするという形式が、評価されていると考える。またグループワークの実施評価も高い。今の授業方針を今後も継続したい。

科目名 : 医療概論 I

(医学科第1学年前期/必修)

履修者数: 95 配付数: 95 回収数: 57 回収率: 60.0%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.5	4.0	3.2	4.0	4.1	4.2

*評価に対するコメント

医療概論 I 担当教員

本講義は、医療に通底している哲学的テーマについて「思考する」ことを目的としている。各講義で配布されるワークシートへの回答をお互いが見られるようにしたことで、多様な意見を吸収しながら自分なりの「こたえ」を出すことができたようである。今後の医学・臨床の学びに活かしてくれることを期待する。

科目名 : 基礎生物学

(医学科第1学年前期/必修)

履修者数: 95 配付数: 95 回収数: 57 回収率: 60.0%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.6	3.7	3.6	3.8	3.2	4.0

*評価に対するコメント

基礎生物学 担当教員

本科目では、人体の生命現象を分子・細胞・組織の各階層レベルで説明できることを到達目標にしています。扱うテーマは多岐にわたっていたため知識習得に時間がかかったかもしれませんが、学生は興味をもって学修に取り組んでくれたようです(総合評価4.0)。今年度の試験は前期期末試験のみだったため、勉強する範囲が広くて大変だったという声が寄せられました。中間試験の実施については来年度の検討課題にしたいと思います。

科目名 : 統計学

(医学科第1学年前期/必修)

履修者数: 95 配付数: 95 回収数: 57 回収率: 60.0%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.4	4.0	3.3	3.9	3.9	4.3

*評価に対するコメント

統計学 担当教員

旧カリキュラムでの統計学基礎の内容を、新カリキュラムにおいて科目名を改めてスタートしました。コロナ禍の行動規制が緩和され、対面筆記試験を3年ぶりに再開し、成績不良者には再試験も実施しました。それでも、昨年並みの高い全体評価をいただきました。本科目では、授業前後での予習復習の必要性を強調しています。問1, 3の評価は相対的に低いものの、昨年度までに準備した資料を今年度もオンラインで利用できるようにしましたので、それらが復習に役立ったとのコメントもいただきました。今後、統計学を復習される機会があれば、質問には対応しますのでお尋ねください。

科目名 : 情報リテラシー

(医学科第1学年前期/必修)

履修者数: 95 配付数: 95 回収数: 53 回収率: 55.8%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.3	3.9	3.0	3.9	3.7	3.9

*評価に対するコメント

情報リテラシー 担当教員

Every year, we receive comment on the assignments, such as the following, which are difficult, and the course progresses quickly. The content of the lecture is explained slowly, repeatedly, and in detail. It is important to learn new things that are unknown, so it is natural that you cannot immediately understand what you do not understand in the lecture. The evaluation scores for preparations and reviews in terms of next and those lessons, respectively, are not high. Without preparations, it is difficult to understand what you will learn in the lecture.

科目名 : 心理学

(医学科第1学年前期/必修)

履修者数: 95 配付数: 95 回収数: 53 回収率: 55.8%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.2	3.9	3.2	3.9	4.1	4.2

*評価に対するコメント

心理学 担当教員

今年は、対面授業とZoomを併用する形式で実施した。講義中に行う心理検査や簡単な実験もZoomで行った。講義中は、板書やチャットによる質疑応答を学生に要求することで、高い教育効果が得られることを目指した。評価は全般的に高く、満足度の平均は4.5であった。自由記載でも「実際にテストを受けたり、参加できることが多かったのが楽しく受けることができた」、「動画や写真などが多く利用し説明していただいたので全体的にわかりやすかった」など、教育効果の高さを示唆するコメントが並んだ。一方、予習と復習については3前後の低い評価となった。これらをもとに次年度は更なる改善を予定している。

科目名 : 数学

(医学科第1学年前期/必修)

履修者数: 95 配付数: 95 回収数: 64 回収率: 67.4%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.5	3.7	3.3	3.7	3.7	4.2

*評価に対するコメント

数学 担当教員

新規科目「数学」は、旧カリキュラムでの医用物理学の数学分野10コマ分の内容を元し、教養数学の主題である線形代数学と微分積分学について講義しました。15コマの授業として、盛り沢山な内容でしたが、開講初年次としては高い評価をいただき、あたたかいコメントも多くいただきました。昨年度までに準備した資料を今年度もオンラインで利用できるようにしましたので、それらが復習に役立ったとのコメントもいただきました。今後、数学に関心を持たれる機会があれば、質問には対応しますのでお尋ねください。

科目名 : 機能形態基礎医学 I

(医学科第 2 学年前期 / 必修)

履修者数 : 121 配付数 : 121 回収数 : 38 回収率 : 31.4%

*評価結果 (平均)

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6
3.9	4.2	3.6	4.1	3.7	4.2

*評価に対するコメント

機能形態基礎医学 I 担当教員

本年度もCOVID-19感染拡大防止のため、講義室での対面授業と学修支援システムmanaba上でのオンライン授業の併用という形となった。2020年度からブラッシュアップを重ねて配布している当講座作成のオンライン学習用資料については受講学生から好評価を頂いており、次年度にCOVID-19の感染状況が改善し全面的な対面授業に戻った場合でも更に内容を充実させ活用していきたいと考えている。

科目名 : 生化学 1

(医学科第 2 学年前期 / 必修)

履修者数 : 120 配付数 : 120 回収数 : 32 回収率 : 26.7%

*評価結果 (平均)

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6
3.4	4.1	3.3	3.8	3.6	4.1

*評価に対するコメント

生化学 1 担当教員

医学 2 年は、生化学を契機に、本格的な医学系講義がスタートで、その分量の多さに戸惑う時期でもある。臨床との繋がりとしての基礎医学の意義を概説し、モチベーションをあげてもらいつつ、医学部での勉強の仕方を講義導入に加えました。本講義のメインである「代謝」生化学は、最終的に、糖、脂質、タンパク代謝のすべてを統合的に理解してもらうために、それぞれの各論に加え、「横ぐし」をいれた復習を兼ねた講義を加えたカリキュラムに変更しました。聴講した学生の多くから興味深く学べた、わかりやすかったという評価を得る一方、試験結果から、新しい講義内容となり「過去問」の小手先対応で太刀打ちできなかった(?)、あるいは医学 2 全体の講義量の多さに対応できなかった理解度の低い群と二極化しておりました。今年度の学生評価や試験結果なども参考にし、ひきつづき、学生が満足できるよう、教員側もポイントを押さえたメリハリのある講義内容や講義資料の改良を不断に続けていきたいと思ひます。

科目名 : 生化学 2

(医学科第 2 学年前期 / 必修)

履修者数 : 119 配付数 : 119 回収数 : 36 回収率 : 30.3%

*評価結果 (平均)

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6
3.6	3.9	3.6	3.9	3.5	3.8

*評価に対するコメント

生化学 2 担当教員

医学 2 年は、生化学を契機に、本格的な医学系講義がスタートで、その分量の多さに戸惑う時期でもある。臨床との繋がりとしての基礎医学の意義を概説し、モチベーションをあげてもらいつつ、医学部での勉強の仕方を講義導入に加えました。本講義のメインである「代謝」生化学は、最終的に、糖、脂質、タンパク代謝のすべてを統合的に理解してもらうために、それぞれの各論に加え、「横ぐし」をいれた復習を兼ねた講義を加えたカリキュラムに変更しました。聴講した学生の多くから興味深く学べた、わかりやすかったという評価を得る一方、試験結果から、新しい講義内容となり「過去問」の小手先対応で太刀打ちできなかった(?)、あるいは医学 2 全体の講義量の多さに対応できなかった理解度の低い群と二極化しておりました。今年度の学生評価や試験結果なども参考にし、ひきつづき、学生が満足できるよう、教員側もポイントを押さえたメリハリのある講義内容や講義資料の改良を不断に続けていきたいと思ひます。

科目名 : 免疫学

(医学科第2学年前期/必修)

履修者数: 120 配付数: 120 回収数: 35 回収率: 29.2%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.6	3.8	3.4	3.9	3.6	3.8

*評価に対するコメント

免疫学 担当教員

問5、6で、いずれも3点台の評価を頂きました。これは、免疫学は多領域にまたがり、内容的にもファジーで難しい学問領域のためかと思われます。また専門の講座もないため、多くの講座の先生によって開講されているのも要因です。ぜひ学生諸君には、自ら学ぶ姿勢で、講義で疑問が生じた際には、遠慮なく教官の方へ質問して頂きたいと考えます。教科書を全て読む必要はありませんが、指定した教科書は分かりやすく書かれており、ポイントをふまえて読めば、理解の助けになります。実践をお願いします。試験に関しては、事前に出題ポイントを提示しており、基本的な出題となっていますので、最低6割は押さえて欲しいと思います。

科目名 : 医用機器学

(医学科第2学年前期/必修)

履修者数: 119 配付数: 119 回収数: 58 回収率: 48.7%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.2	3.7	2.9	3.7	3.8	4.0

*評価に対するコメント

医用機器学 担当教員

未だコロナウイルスの終息には至っておらず、オンラインとの併用での講義となりました。入学後、比較的早い段階で様々な医用機器に対しての知識を持ってもらえると今後の医学の学習にも有用と思います。実機に触れる機会があればベターですが、感染症のまん延防止にも配慮する必要がありますのでこの点をご理解頂きたいと思えます。今後もニーズに沿った講義を目指します。

科目名 : 医療社会学

(医学科第2学年前期/必修)

履修者数: 119 配付数: 119 回収数: 51 回収率: 42.9%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.1	4.0	3.1	3.8	4.0	4.1

*評価に対するコメント

医療社会学 担当教員

今年度は、半数の学生に対面での講義、残りの学生にはZoomを用いたオンラインでの講義という形式(分散登校)で実施しました。各質問の回答のスコアや自由記載の内容を確認すると、授業の意図や内容は適切に理解されていると思います。今回の授業評価の結果も参考にして、次年度の授業を企画したいです。

科目名 : 医学英語Ⅲ

(医学科第3学年前期/必修)

履修者数: 90 配付数: 90 回収数: 20 回収率: 22.2%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.3	3.8	3.2	3.9	3.7	3.8

*評価に対するコメント

医学英語Ⅲ 担当教員

医学英語Ⅲは、学生のみなさん全員が取り組むe-learningコースと、講師ごとに分かれて行う選択コースの組み合わせで展開しました。講師別クラスでは、分散登校のためオンライン授業となりましたが、皆さんは、課題の意図を理解し、しっかり取り組んでくれたという印象を持っています。皆さんからのフィードバックをもとに、課題の提示方法を工夫したいと考えています。

科目名 : 心肺病態制御医学

(医学科第3学年前期/必修)

履修者数: 90 配付数: 90 回収数: 27 回収率: 30.0%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.4	3.8	3.2	3.8	3.5	3.9

*評価に対するコメント

心肺病態制御医学 担当教員

COVID-19パンデミックがまだ大きく影響しており、講義に対する評価は、科目理解度3.8, 科目満足度3.9と前年並みであった。Manabaでの講義が多かったため、資料を頼っている学生が多いようであるが、教員が提供する資料については、「どこが重要なのか強調してほしい」「重要なところを分かりやすく解説してほしい」などの要望が多く聞かれた。一方、臨床の画像などがあると理解が進むという意見も聞かれており、コロナ禍という特殊な教育環境において、教官側のいっそうの工夫・努力が求められている。

科目名 : 消化器医学

(医学科第3学年前期/必修)

履修者数: 90 配付数: 90 回収数: 25 回収率: 27.8%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.8	4.0	3.8	3.8	3.6	4.0

*評価に対するコメント

消化器医学 担当教員

今年度は3年振りに原則全員登校での受講となったが、manabaによる講義資料配付と小テストは継続し、体調不良者へのオンライン受講を併用した。前年と比較し今回は回収率が低いが、難易度、満足度の評価は低下し、予習実施割合がやや上昇している。試験が難しかったというコメントもみられたが、定期試験の成績は全体に良好であった。時間割の変更等により一部混乱もあったと思うが、資料を活用して十分に自己学習ができていたものと理解する。引き続き学習意欲を刺激するような講義の充実を図っていきたい。

科目名 : 医療概論Ⅳ

(医学科第4学年前期/必修)

履修者数: 116 配付数: 116 回収数: 28 回収率: 24.1%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.3	4.1	3.4	4.1	4.1	4.2

*評価に対するコメント

医療概論Ⅳ 担当教員

回収率が24%と低く、評価の妥当性が問題であるが、満足度、難易度、理解度とも4点を超えており良好な評価であると認識している。今後も同じ形式で継続していきたい。

科目名 : 腫瘍学2

(医学科第4学年前期/必修)

履修者数: 116 配付数: 116 回収数: 33 回収率: 28.4%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.2	3.8	3.2	3.7	3.9	4.0

*評価に対するコメント

腫瘍学2 担当教員

回収率が28.4%と低いアンケート結果である。全体として満足できるか?の項目は4.0であり例年と大きな変化なく、改善の余地がある。事前に予習をしたかの?項目は3.2と低く、自主学習などの改善を望む。今後益々重要になる癌ゲノム医療の最新情報についても盛り込んでいきたい。

科目名 : 衛生・公衆衛生

(医学科第4学年前期/必修)

履修者数: 116 配付数: 116 回収数: 34 回収率: 29.3%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.1	3.8	3.3	4.0	3.8	3.9

*評価に対するコメント

衛生・公衆衛生 担当教員

衛生・公衆衛生学は内容が多岐にわたり、健康危機管理・感染症対策や医師の働き方対策、医療制度、地域医療等、社会的に重要な内容を多く含んでいます。今後も臨床医学と並行してアップデート後が必要なことも多いと思いますので、ぜひ興味を持って学習を続けて下さい。

科目名 : 法医学

(医学科第4学年前期/必修)

履修者数: 116 配付数: 116 回収数: 32 回収率: 27.6%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.4	4.0	3.5	3.9	3.9	4.2

*評価に対するコメント

法医学 担当教員

法医学講義は、異状死体の死因究明を的確に遂行することができる臨床医になるために、必要な知識を学ぶ機会である。今年も前半は対面とzoomによる講義となったが、学生サイドからは「最近のニュースを混じえた内容で興味を持ちやすかった」「レジュメが見やすく復習しやすかった」等の感想が寄せられた。授業評価の評点からも概ね有意義な講義であったと言える。

科目名 : 医療情報学

(医学科第4学年前期/必修)

履修者数: 116 配付数: 116 回収数: 34 回収率: 29.3%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.1	3.9	3.2	3.8	3.9	3.9

*評価に対するコメント

医療情報学 担当教員

今年度はzoomのオンラインと対面を併用するハイブリッド講義でしたが、zoomの学生参加が毎回半数程度しかなく非常に残念な状況でした。来年度は双方の形式に対応できるように改善を行い、また昨今話題のテーマなどを講義のなかに盛り込んでいきたいと思えます。

科目名 : 整形外科

(医学科第4学年前期/必修)

履修者数: 116 配付数: 116 回収数: 33 回収率: 28.4%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.4	3.8	3.5	3.8	3.9	4.0

*評価に対するコメント

整形外科 担当教員

評価平均は3.4~4.0であり、昨年より0.1上昇したが概ね例年どおりであった。自由記載の感想が2人のみであり、来年度の講義を検討する際の情報としては物足りなかった。例年のことではあるが、回収率が28.4%と低い。学生の声を拾い、よりよい講義を企画するために、回収率を上げ、自由記載での意見を増やす方法を学生課でも検討していただきたい。

科目名 : 麻酔科学

(医学科第4学年前期/必修)

履修者数 : 116 配付数 : 116 回収数 : 33 回収率 : 28.4%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.5	3.9	3.6	4.1	4.0	4.2

*評価に対するコメント

麻酔科学 担当教員

コロナ禍の近年の講義は、対面とオンラインの併用が多く、学生の理解と満足度を得るのに苦慮しております。問4～問6の評価の平均が4.0を超えているので、一定以上の理解と満足度が得られたと考えております。改善点と提案に関しては、来年度の参考にさせていただきます。

科目名 : 救急医学

(医学科第4学年前期/必修)

履修者数 : 116 配付数 : 116 回収数 : 33 回収率 : 28.4%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.5	3.9	3.7	4.0	4.0	4.0

*評価に対するコメント

救急医学 担当教員

今年度も、いろいろと貴重なご意見を頂きありがとうございました。ハイブリッド形式による講義形態にも慣れてきて、教員側の対応も改善したのではないかと思います。高評価を得られた担当教員もおり、講座内でも今後の参考に情報共有させていただきました。評価に関しても概ね満足の得られる結果でしたが、自己学習に関しては例年不十分であり、皆さんの興味が得られるよう、より一層の充実を検討しております。

科目名 : 症候別・課題別講義

(医学科第4学年前期/必修)

履修者数 : 116 配付数 : 116 回収数 : 22 回収率 : 19.0%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.5	4.0	3.7	4.0	3.9	3.9

*評価に対するコメント

症候別・課題別講義 担当教員

症候別課題別講義は4月から開講され、本年度はすべて対面授業で実施しました。また試験については、過去2年間オンラインで実施しましたが、本年度は登校下で実施しました。講義のテーマは文部科学省のコアカリ37症候を基本に構成されており、卒業時までには修得すべき知識・技能を中心に講義をしていただいております。今回の授業評価結果を真摯に受け止め、今後も授業の改善に努めていきたいと考えております。

科目名 : 臨床放射線学

(医学科第4学年前期/必修)

履修者数 : 116 配付数 : 116 回収数 : 29 回収率 : 25.0%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.4	3.7	3.6	3.7	3.7	3.9

*評価に対するコメント

臨床放射線学 担当教員

アンケート結果に関しては担当教員の間で情報を共有して、可能な範囲で検討したいと思います。オンラインの部分もあり、放射線科という内容の性質上、スライド等では伝わりにくい部分もありますが、講義内容やスライド枚数等を含め、今後もニーズに沿ったより良い講義を行いたいと考えています。実習でも頑張ってください。

科目名 : 臨床検査学

(医学科第4学年前期/必修)

履修者数 : 116 配付数 : 116 回収数 : 31 回収率 : 26.7%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.4	3.8	3.5	3.8	3.9	4.0

*評価に対するコメント

臨床検査学 担当教員

全体としての満足度は4.0であり、昨年の3.9より若干上昇しておりますが、さらなる改善に努めます。臨床検査医学は多くの分野に関わる科目でありますので、学生の皆さんにさらに興味を持っていただけるような、充実した授業となるよう企画検討したいと思います。

科目名 : 臨床薬剤・薬理・治療学

(医学科第4学年前期/必修)

履修者数 : 116 配付数 : 116 回収数 : 30 回収率 : 25.9%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.3	3.9	3.6	4.0	4.0	4.2

*評価に対するコメント

臨床薬剤・薬理・治療学 担当教員

理解度、満足度は、4点前後と学生からは、一定の評価をいただきました。一方それと比較すると、「予習」、「復習」の評価は、3.5点前後と低かったです。臨床薬剤・薬理・治療学は、広く薬剤に関する領域を扱い、医薬品の適正使用に重要な位置を占めています。学生が、意欲的に学びを進めていけるように、今後も充実した内容の準備をまいります。

科目名 : 臨床疫学

(医学科第4学年前期/必修)

履修者数 : 116 配付数 : 116 回収数 : 30 回収率 : 25.9%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.5	3.7	3.6	3.9	3.9	4.0

*評価に対するコメント

臨床疫学 担当教員

臨床疫学はEBMに対応するため、さらに自ら臨床研究を実施するための基礎となる重要な領域となります。課題のクリティカル・リーディングでも、研究方法が適切か判断し、結果の解釈を正しく行う訓練になったと思いますので、臨床研究の論文を読む際に、この分野の勉強を続けてください。

科目名 : 健康弱者のための医学

(医学科第4学年前期/必修)

履修者数 : 116 配付数 : 116 回収数 : 26 回収率 : 22.4%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.2	4.1	3.4	4.1	4.0	4.1

*評価に対するコメント

健康弱者のための医学 担当教員

健康に弱みを持ち(健康弱者)ながら地域社会で生活する方々が増えている。健康弱者は外部刺激や疾病時に健康者と異なる反応や病態が起こるが、現代医学教育で総合的に学ぶ機会が無いことを受け、健康弱者への医学・福祉的対応を学ぶ複合科目として2012年に創設された科目である。実務に携わる講師を中心とした講義による学びからなる。予習・復習に関する項目の点数が低いですが、おおむね良好な評価であった。

科目名 : 医療安全

(医学科第4学年前期/必修)

履修者数 : 116 配付数 : 116 回収数 : 28 回収率 : 24.1%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.4	4.1	3.5	4.3	4.1	4.3

*評価に対するコメント

医療安全 担当教員

2022年度から科目責任者が変わり、TBLを1日(2コマ)入れるなど、前年度までとは異なる授業形態を取り入れました。原則対面授業にZoomのLive授業・オンデマンド視聴などで、みなさんしっかりと学んでいたと思います。いただいた意見を取り入れて次年度の講義を改善していきます。

科目名 : 情報リテラシー

(看護学科第1学年前期/必修)

履修者数 : 60 配付数 : 60 回収数 : 47 回収率 : 78.3%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
2.8	3.6	2.7	3.8	3.7	3.9

*評価に対するコメント

情報リテラシー 担当教員

Every year, we receive comment on the assignments, such as the following, which are difficult, and the course progresses quickly. The content of the lecture is explained slowly, repeatedly, and in detail. It is important to learn new things that are unknown, so it is natural that you cannot immediately understand what you do not understand in the lecture. The evaluation scores for preparations and reviews in terms of next and those lessons, respectively, are not high. Without preparations, it is difficult to understand what you will learn in the lecture.

科目名 : 初年次セミナー

(看護学科第1学年前期/必修)

履修者数 : 60 配付数 : 60 回収数 : 52 回収率 : 86.7%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.7	4.3	2.9	3.9	4.4	4.6

*評価に対するコメント

初年次セミナー 担当教員

本年度もコロナ禍により、グループワークができませんでしたが、全体の満足度に関しては平均4.6と、高い評価をいただいたので嬉しく思っています。特に現役の看護師、助産師、保健師の講演、看護職キャリアセンターと二輪草センター共催の「看護の世界」に絶賛をいただきました。次年度もより充実した企画を提供したいと思っています。初年次セミナーは終了しましたが、アカデミックスキルは一朝一夕で身に付くものではありません。今回関わった教員一同、皆さんのスキルが向上するように、そして充実した大学生活が送れるように、卒業するまで見守りたいと考えています。

科目名 : 看護社会論

(看護学科第1学年前期/必修)

履修者数 : 60 配付数 : 60 回収数 : 45 回収率 : 75.0%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.4	4.1	3.1	3.9	4.3	4.4

*評価に対するコメント

看護社会論 担当教員

今年度は、7月までは分散登校での受講(履修生の半数は対面での受講、残りの半数はオンラインでの受講)、夏季休業の後は全員が対面で受講という形式で授業を実施しました。授業のなかで明確な答えがない問題を扱うことにとまどった学生もいたようです。ですが、授業評価の集計結果や授業時間内の課題への解答などから、授業内容が適切に理解されていたと考えています。授業評価の集計結果は、次年度の授業を企画するときに参考にしたいと思っています。

科目名 : 栄養学

(看護学科第1学年前期/必修)

履修者数: 60 配付数: 60 回収数: 46 回収率: 76.7%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.5	3.9	3.2	3.9	4.2	4.3

*評価に対するコメント

栄養学 担当教員

昨年に引き続きコロナ禍ではありましたが、本年度は半数対面による講義を行うことができました。アンケートの結果は、難易度の適切さの平均は4.2ポイント、全体の満足度については4.3ポイントと高く、好意的な意見もいただきましたので、適正な企画であったと考えます。次年度も本年度同様、わかりやすい講義・構成を心掛けたいと思います。

科目名 : 発達心理学

(看護学科第1学年前期/必修)

履修者数: 60 配付数: 60 回収数: 53 回収率: 88.3%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.2	4.0	2.9	3.7	4.3	4.5

*評価に対するコメント

発達心理学 担当教員

今年は、オンライン形式と対面形式を併用する講義を行った。講義中は、板書を高頻度に要求し、かつ、心理発達の特徴を説明するための動画を適宜使用することで、高い教育効果が得られるように努めた。評価は例年通り高く、満足度の平均は4.5となった。自由記載でも「講義資料が書き込み式で非常に充実していた」、「説明がとてもわかりやすかった」、「実際に自分が体験するものもあったりしてとても面白かった」などの肯定的なコメントが多数見られた。一方、学生自身の予習と復習については、それぞれ3.2、2.9という低い評価であった。次年度はこれらの点について改善を目指したい。

科目名 : コミュニケーション論

(看護学科第1学年前期/必修)

履修者数: 60 配付数: 60 回収数: 47 回収率: 78.3%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.6	4.1	3.2	4.0	4.2	4.5

*評価に対するコメント

コミュニケーション論 担当教員

全体の満足度は高いものとなっており一定の履修目標は達成したものと評価しております。ただ、最近のコロナ禍において、「コミュニケーション」と言いながら知識の獲得が授業の中心になっております。演習や交流形式の授業に限界がある部分をレポートや事例で考えを深めてもらっているのですが、来年度は感染状況を踏まえながら能動的な授業を通してコミュニケーションの理解が深められるよう準備を進めていきます。

科目名 : 英語ⅡA

(看護学科第2学年前期/必修)

履修者数: 60 配付数: 60 回収数: 36 回収率: 60.0%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
2.9	3.9	2.7	3.9	4.1	4.1

*評価に対するコメント

英語ⅡA 担当教員

今年度の英語IIAはmanabaによるオンライン授業で、時事的記事の読解演習を行いました。英語の読解力が向上しただけではなく、記事内容に対する関心も深めることができたとしたら担当者としても喜ばしいことです。受講者の熱心な取り組みに敬意を表します。

科目名 : 英語ⅡB

(看護学科第2学年前期/必修)

履修者数: 60 配付数: 60 回収数: 34 回収率: 56.7%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.7	3.9	3.0	4.1	4.1	4.2

*評価に対するコメント

英語ⅡB 担当教員

I am glad that most nursing students seemed to enjoy English, and to find our class of value. For nurses, English is not the most important subject, but English ability is certainly an asset for health care professionals. It is a privilege to teach future nurses. Nursing is an essential and noble profession, and nurses are very special people. I understand this well, because there are many nurses among my own family and friends. When people hear that you are a nurse, they know immediately that you are intelligent, hard-working, dedicated, kind, and trustworthy. I hope that each of our students will become the best nurse he or she can be, and be proud to wear the title "nurse".

科目名 : 統計学

(看護学科第2学年前期/必修)

履修者数: 60 配付数: 60 回収数: 45 回収率: 75.0%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.0	3.4	2.8	3.5	3.4	3.9

*評価に対するコメント

統計学 担当教員

授業形態は分散登校とオンラインとのハイブリッドでした。今年度は感染拡大による対面中止はなく、座学とコンピュータ実習を組み合わせる計画通りに進行できました。分散登校の対面授業グループの実習授業中は、オンライングループはオンデマンド形式となり、その評価が分かれた印象でしたが、全体評価は「3.9」とまあまあの評価をいただきました。新しい学び方への模索は続きますが、タブレット、ノートパソコンの所持率が上がり、それらを利用しながら対面受講するスタイルへの変化を感じています。今後、統計学を復習される機会があれば、質問には対応しますのでお尋ねください。

科目名 : 病理学各論

(看護学科第2学年前期/必修)

履修者数: 60 配付数: 60 回収数: 33 回収率: 55.0%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.1	4.0	3.2	4.1	4.5	4.6

*評価に対するコメント

病理学各論 担当教員

新カリ開始後2年目の病理学各論でしたが、本年度はコロナ禍で半数対面、半数Zoom授業となりました。しかしながら、全体の満足度の評価平均は4.6ポイントと高く、適正な企画であったと考えています。次年度は、より充実した内容を企画したいと思います。

科目名 : 臨床病態治療学Ⅰ

(看護学科第2学年前期/必修)

履修者数: 60 配付数: 60 回収数: 39 回収率: 65.0%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
2.8	3.9	3.0	3.9	4.0	4.3

*評価に対するコメント

臨床病態治療学Ⅰ 担当教員

新カリ開始後3年目の臨床病態治療学Ⅰでしたが、本年度はコロナ禍で半数対面、半数Zoom授業となりました。しかしながら、全体の満足度の評価平均は4.3ポイントと高く、適正な企画であったと考えています。次年度は、より充実した内容を企画したいと思います。

科目名 : 健康教育論

(看護学科第2学年前期/必修)

履修者数 : 60 配付数 : 60 回収数 : 39 回収率 : 65.0%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
2.8	3.6	2.9	3.5	3.6	3.7

*評価に対するコメント

健康教育論 担当教員

本講義は看護実践にも役立つことから、対象範囲を毎年見直しているところです。今年度は講義の範囲をSOC、レジリエンスなどにも拡大しました。本講義は特定分野の内容と思われがちですが、看護全体に関わるためこれらの知識をしっかりと保有しておくことが求められます。ただ今年度は講義の予習・復習を行うための環境づくりが十分でなかったように思いますので次年度の課題とさせていただきます。また、講義で不備があり学生の皆さんに迷惑をかけてしまったことについてはお詫びいたします。

科目名 : 成人看護学 I

(看護学科第2学年前期/必修)

履修者数 : 60 配付数 : 60 回収数 : 38 回収率 : 63.3%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.7	3.5	3.5	3.5	3.0	3.4

*評価に対するコメント

成人看護学 I 担当教員

学生の評価点のうち事前学習が他の評価に比べて3.7と例年(3.3程度)よりやや高い傾向にありました。予習が身につけている学生が、増加したことはよかったです。資料と教科書のページが異なるとの意見が散見されました。講義時に訂正を加えていましたが、今年度採用の教科書は、改訂があったため、資料は旧版の教科書には対応していません。その影響による意見であれば教科書は、3学年・4学年でも使用するので気になります。

科目名 : 精神看護学 I

(看護学科第2学年前期/必修)

履修者数 : 60 配付数 : 60 回収数 : 38 回収率 : 63.3%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.2	4.0	3.1	4.0	3.9	4.1

*評価に対するコメント

精神看護学 I 担当教員

この授業は精神看護学Ⅱ、3年生の実践看護技術学(演習)につながる基礎的な知識の習得を狙っています。精神的健康を個人から社会まで関連づけて学ぶ中で15コマという限られた時間の中で覚えることが多すぎるのかと評価をふり返りながら考えています。来年度は予習復習の工夫及び改善に加え、動画教材など用いて皆さんに考えてもらうことを重視します。

科目名 : 臨床薬理学

(看護学科第3学年前期/必修)

履修者数 : 61 配付数 : 61 回収数 : 31 回収率 : 50.8%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.1	3.6	2.9	3.6	3.7	4.0

*評価に対するコメント

臨床薬理学 担当教員

新カリ開始後初めての臨床薬理学でしたが、今年度はコロナ禍で半数対面、半数Zoom授業となりました。全体の満足度の評価平均は4.0ポイントと昨年度より高く、ほぼ適正な企画であったと考えています。次年度は、より充実した内容を企画したいと思います。

科目名 : 臨床病態治療学Ⅲ

(看護学科第3学年前期/必修)

履修者数: 61 配付数: 61 回収数: 30 回収率: 49.2%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.1	3.7	2.9	3.9	3.9	4.1

*評価に対するコメント

臨床病態治療学Ⅲ 担当教員

新カリ開始後2年目の臨床病態治療学Ⅲでしたが、本年度はコロナ禍で半数対面、半数Zoom授業となりました。全体の満足度の評価平均は4.1ポイントと昨年度よりわずかに高い評価になりました。ほぼ適正な企画であったと考えています。次年度は、より充実した内容を企画したいと思います。

科目名 : 保健医療福祉システム論

(看護学科第3学年前期/必修)

履修者数: 61 配付数: 61 回収数: 30 回収率: 49.2%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.1	3.6	3.0	3.7	3.7	3.9

*評価に対するコメント

保健医療福祉システム論 担当教員

この科目は、人々の生活を支えるシステムについて学び、人々に密着している看護職としてよいケアを提供するための土台を考えるものです。社会福祉の歴史の変遷に始まり、法や制度、最前線で活躍している保健福祉の講師の方々から講義をしていただきました。最初から良いシステムは無く、社会のニーズを見極め常にシステムのメンテナンスが必要です。今、医療を中心に学ばれている皆さんが医療だけではなく福祉や保健がつながることで暮らしやすさを創造できることを理解されたと期待しています。

科目名 : 成人看護学Ⅱ

(看護学科第3学年前期/必修)

履修者数: 61 配付数: 61 回収数: 31 回収率: 50.8%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.5	3.7	3.2	3.6	3.7	3.9

*評価に対するコメント

成人看護学Ⅱ 担当教員

科目の理解に関する問2は「3.7」、一般目標の達成に関する問4は「3.6」、講義全体の満足に関する問6は「3.9」であることから、学生の学習目標はおおむね達成できたと考える。しかし、問3は「3.2」と他項目よりも低いため、次年度は講義開始のガイダンス時に学習内容の定着のためにも講義の復習が重要であることを、学生により一層強調していきたいと考える。

科目名 : 高齢者看護学Ⅱ

(看護学科第3学年前期/必修)

履修者数: 61 配付数: 61 回収数: 30 回収率: 49.2%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.3	3.9	3.1	3.9	4.0	4.0

*評価に対するコメント

高齢者看護学Ⅱ 担当教員

科目名 : 在宅看護学

(看護学科第3学年前期/必修)

履修者数: 61 配付数: 61 回収数: 30 回収率: 49.2%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.9	3.9	3.3	3.9	4.1	4.2

*評価に対するコメント

在宅看護学 担当教員

在宅で行う看護のイメージができるよう動画を見てもらい、また、非常勤講師に実際をご教授頂き、最後はグループワークでも理解を深めました。在宅看護に関わる法令・制度、幅広い中からニーズの高い疾患、在宅ならではの強みも生かした看護過程の考え方など特徴を理解できたのではないかと評価します。前日資料掲示とオンライン事前テストを実施し、学生評価からは予習ができたようで、授業中に学びを深められたと推察します。

科目名 : がん看護学 I

(看護学科第3学年前期/必修)

履修者数: 61 配付数: 61 回収数: 28 回収率: 45.9%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.5	3.8	3.2	3.8	4.0	3.9

*評価に対するコメント

がん看護学 I 担当教員

COVID-19 感染拡大の影響下でイーラーニングであっても、学生の誰しもが一度は出会うがん患者さんへのQOLをどのように理解し、支援するかについて努力し学ばれていました。その満足感が例年にない高さでした。特に、がん看護で重要なコミュニケーション場面の動画による学習の効果を報告してくださいました。がん看護の基盤となる知識と技術をがん看護学 I を通して、さらに満足感が高まる学びを共に目指したいと思います。

科目名 : チーム医療・リハビリテーション看護論

(看護学科第3学年前期/必修)

履修者数: 61 配付数: 61 回収数: 29 回収率: 47.5%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.3	3.9	3.4	3.8	3.9	4.0

*評価に対するコメント

チーム医療・リハビリテーション看護論 担当教員

問2、問6の評価については、実臨床の様々な職種の講師を招き講義を実施したことで、チーム医療やリハビリテーションの実際を学ぶことができた結果と考える。問1の予習に関する事前課題は実施していないが、問3については講義後のレポート課題を課しており学びを深めるよう努めている。昨年度と比較すると、問3は2.9であり改善が認められている。今後もさらに講義内容や課題について工夫していきたい。

科目名 : 看護英語文献講読

(看護学科第3学年前期/選択必修 (専門科目))

履修者数: 61 配付数: 61 回収数: 32 回収率: 52.5%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.3	3.8	2.8	3.8	3.6	3.8

*評価に対するコメント

看護英語文献講読 担当教員

COVID-19 感染拡大影響下で3年目を迎えてのイーラーニングの学習環境でしたが、その困難の中でも、久しぶりの英語の講義体験、医療・看護英語文献を教材とした内容に興味関心を高め満足を得られた方が例年以上でした。ZoomやmanabaでのGWなど学生の皆さんが積極的に取り組まれた成果です。GWでの各自の積極的取り組みと海外の文献を通し、日本の医療と看護を理解し視野を広げる機会となることを期待しています。

科目名 : 国際保健・災害看護論

(看護学科第4学年前期/必修)

履修者数: 61 配付数: 61 回収数: 8 回収率: 13.1%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.3	3.8	3.3	3.8	4.0	3.9

*評価に対するコメント

国際保健・災害看護論 担当教員

この科目は国際看護と災害看護の2つで構成されています。オンライン講義3年目でしたが、写真やビデオを使いイメージができるように心がけました。皆さんのレポートからは、生活背景や文化を尊重しながら寄り添う姿勢、心のケア、長期的な継続支援など看護の本質をしっかりくみ取ってくれたと思います。看護は実践の科学です。災害看護も国際看護も最初から素晴らしい実践があったわけではありません。諸先輩たちが試行錯誤して作りあげてきたものを今度は皆さんがバトンを受け取り、実践を積み重ね発展させていくことを期待しています。

科目名 : 看護管理・医療安全論

(看護学科第4学年前期/選択必修(専門科目))

履修者数: 61 配付数: 61 回収数: 9 回収率: 14.8%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.0	3.7	2.8	3.8	3.7	3.8

*評価に対するコメント

看護管理・医療安全論 担当教員

本科目は2019カリキュラムから開講の新規科目です。それまで選択科目であった看護管理を医療安全の内容も加えた必修科目としました。看護活動を行う上で必須の内容を、臨床で看護管理を実践する看護管理者の方に講義をしてもらっています。予習・復習のしやすさについて改善が必要という反省はありますが、満足度は3.8とまずまずの評価を得たと思います。とはいうものの回収率が14.8%であり、全体の意見の反映とは言い難いです。

科目名 : がん看護学Ⅱ

(看護学科第4学年前期/選択必修(専門科目))

履修者数: 61 配付数: 61 回収数: 5 回収率: 8.2%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.2	4.2	2.2	3.8	4.0	4.6

*評価に対するコメント

がん看護学Ⅱ 担当教員

がん看護学Ⅰの基盤的知識のもとに、さらにはがんサバイバーの在り様、体験、課題についての積極的な議論ができ、満足度も高い成果を得られました。選択される学生の皆さんの関心に基づき、さらなるがんサバイバーシップを一緒に探究したいと思います。

科目名 : がん看護学Ⅲ

(看護学科第4学年前期/選択必修(専門科目))

履修者数: 19 配付数: 19 回収数: 2 回収率: 10.5%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.5	4.0	3.0	4.0	4.0	5.0

*評価に対するコメント

がん看護学Ⅲ 担当教員

がんサバイバーシップに続くがんとの共生のコースを終える患者さんとその家族のエンドオブライフについて、積極的に探究し課題を見出し今後の実践につながるケアの方向性を見出すことができていました。満足度も高い成果を得られました。さらなるがんエンドオブライフケアを一緒に探究したいと思います。

2022 年度前期「企画に対する学生評価」

実習企画（または演習企画）に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に配布された資料を読むなど予習をしましたか。
	問2 実習（演習）に積極的に参加しましたか。
実習（演習）計画	問3 実習（演習）の目的は履修要項やガイダンスで理解できましたか。
	問4 実習（演習）はおおむねスケジュールに沿って行われましたか。
	問5 学生数に対して指導担当者数は適切でしたか。
	問6 指導担当者は適切な指導能力を備えていましたか。
実習（演習）内容	問7 実習（演習）の内容は、関連する講義科目の内容と対応がとれていましたか。
	問8 事前に配布された資料は、実習（演習）を進める上で役立ちましたか。
	問9 実習（演習）によって技術を十分に習得することができましたか。
	問10 実習（演習）内容の難易度は適切でしたか。
	問11 課された提出物（レポートなど）の量や内容は適切でしたか。
実習（演習）環境	問12 実習（演習）用の設備・機材・用具などは性能に問題はありませんでしたか。
	問13 実習（演習）用の設備・機材・用具などは量の面で十分でしたか。
	問14 安全に対する適切な指導と配慮がなされていましたか。
	問15 安全の人権に対する配慮がなされていましたか。
総合評価	問16 この実習（演習）は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強く思う （非常に良い）
 ④ やや思う （良い）
 ③ どちらとも言えない （普通）
 ② あまりそう思わない （あまり良くない）
 ① 全くそう思わない （良くない）

科目名：基礎生物学実習

(医学科第1学年前期／必修)

履修者数：95 配付数：95 回収数：55 回収率：57.9%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.2	4.7	4.3	4.4	4.6	4.5	4.4	4.7	4.3	4.2	3.9	4.6	4.7	4.6	4.6	4.5

*評価に対するコメント

基礎生物学実習 担当教員

令和4年度の基礎生物学実習は、昨年度と同様に1学年を4グループに分け、分散登校による実技とeラーニングのハイブリッド形式で実施しました。SARS-CoV-2感染と濃厚接触による公休、それに伴う補講の対象者は20名を超えたものの、実習そのものは大きな影響を受けることなく予定通りスムーズに実施することができました。学生からの評価は、アンケート回収率は低かった（57.9%）ものの例年通りであり、実習のクオリティは概ね維持できたのではないかと考えています。なお、評価項目の問11「課された提出物（レポートなど）の量や内容は適切でしたか」は最も低い評価（3.9）になっていますが、10種類の実習テーマのうちレポートを課しているテーマは4テーマです。残りのテーマは実習時間中に課題を完成させて提出してもらっています。それでも今後は他の授業科目のことも考慮し、レポートの提出期限・出題内容・数を再検討する必要があると感じております。

科目名：医用物理学実習

(医学科第1学年前期／必修)

履修者数：95 配付数：95 回収数：74 回収率：77.9%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.5	4.6	4.3	4.7	4.6	4.3	4.2	4.6	4.1	4.1	3.9	4.6	4.6	4.6	4.4	4.4

*評価に対するコメント

医用物理学実習 担当教員

総合評価は4.4であった。この数値は昨年度と変わらない。個別に見ていくと問4が0.6ポイント増加したほかは大きな変化がない。数値については最も低い項目でも問13の3.9であり、全体を通して実習内容が受け入れられているものと考えられる。なお問4の増加理由は、昨年度には新型コロナウイルスの感染状況によるスケジュール変更があったのに対して今年度は当初の予定通りに日程をこなすことができたためと推察できる。

科目名：形態学実習Ⅰ

(医学科第2学年前期／必修)

履修者数：119 配付数：119 回収数：34 回収率：28.6%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.3	4.4	4.0	4.4	4.0	4.2	4.4	4.5	4.0	3.8	3.7	4.4	4.1	4.5	4.4	4.2

*評価に対するコメント

形態学実習Ⅰ 担当教員

本年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、実習室での対面と学修支援システムmanaba上でのオンラインの併用スタイルで実習を行いました。事前にmanaba配信しているオンライン実習資料については、「参考になった」などの高評価コメントをいただいています。一方、反省すべきコメントもいくらかいただいておりますので、次年度の実習に反映・改善し、より充実した「形態学実習Ⅰ」を展開していければと考えています。

科目名：生化学実習

(医学科第2学年前期／必修)

履修者数：119 配付数：119 回収数：29 回収率：24.4%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.6	4.7	4.0	4.2	4.1	4.2	4.1	4.3	4.0	3.8	3.6	4.2	4.1	4.4	4.4	4.0

*評価に対するコメント

生化学実習 担当教員

酵素タンパク質は代謝などの生命活動を支える重要な物質であるが、その実体を目視で確認することのできないナノスケールの物質である。それでも生化学実習では、反応液中で起こる化学反応に対して酵素が確かに触媒作用を持つことや、また基質濃度や阻害剤などに依存した反応速度論的作用を実感できたかと思う。生化学はサイエンスであり、必ずしも医学応用を目指したものではないが、医学を含む生命科学を支える幅広い学問として、その観点は医学を志す者が習得すべき重要なもののひとつである。コメントに「とても良い実習だったと思います。全て対面でできなかったのが、残念であったくらいです。」とあるように、座学の生化学講義のみでなく、この生化学実習で乳酸脱水素酵素に少しでも触れることが出来たことは学生にとって大きな価値を持つと考えている。是非、将来の仕事や研究に役立てて欲しいと願っている。

科目名：免疫学実習

(医学科第2学年前期／必修)

履修者数：119 配付数：119 回収数：29 回収率：24.4%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
3.8	4.0	3.7	4.3	3.9	3.6	3.7	4.0	3.3	3.6	3.8	3.6	3.6	3.8	3.9	3.8

*評価に対するコメント

免疫学実習 担当教員

免疫学実習は専門の講座がないため学内の多くの講座の先生方の御尽力によって行われています。多岐に渡るテーマを取り上げているのと、コロナ禍の折、ほぼ全てがオンライン実習で行われた影響もあり問16で3.8の評価でした。今まで一貫性に乏しく学生さんからの評判も良くなかったこの実習は、今回が最後で廃止になります。教員、学生両方にとって、廃止になり良かったと思います。

科目名：生理学実習・演習

(医学科第3学年前期／必修)

履修者数：90 配付数：90 回収数：16 回収率：17.8%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.6	4.8	4.3	4.7	4.4	4.6	4.6	4.8	4.1	4.0	4.3	4.1	4.2	4.6	4.5	4.7

*評価に対するコメント

生理学実習・演習 担当教員

三年ぶりに対面での生理学実習を実施した。密を避けるため、一回の実習における学生数を半分に、実習の回数を二倍にするという実習スケジュールを組んだ。回収率は20%以下であったが、学生さんからの総合的な評価は4.7点であった。今年の実習に関しては、この結果がどのような意味を持つかを考えるよりも、むしろ、真剣に対面で実習することは、学生さん方に我々の思いを伝える意味では極めて有意義であったと感じている。

科目名：薬理学実習

(医学科第3学年前期／必修)

履修者数：90 配付数：90 回収数：42 回収率：46.7%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.4	4.4	4.2	4.4	4.2	4.2	4.4	4.3	4.1	3.7	2.5	4.0	4.1	4.4	4.4	4.0

*評価に対するコメント

薬理学実習 担当教員

実習が満足できるものであったかの評価が4.0であることから、多くの学生に満足してもらえたかと思う。学生から、「時間が足りず納得いくレポートを作成できないので、レポートの提出期間をもう少し長く設定してほしい」という要望があったので、来年度は再考したいと思う。

薬理学の知識は、どの診療科でも必要なので、今一度復習をして自分の理解に間違いがないか確認し、臨床系の講義・実習に臨んで頂きたい。

科目名：微生物学実習

(医学科第3学年前期／必修)

履修者数：90 配付数：90 回収数：23 回収率：25.6%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.4	4.4	4.2	3.5	4.3	4.6	4.5	4.5	3.8	3.9	3.7	4.3	4.3	4.5	4.4	4.1

*評価に対するコメント

微生物学実習 担当教員

微生物学実習は、細菌培養、細菌同定、ウイルス培養などを行うことで、講義で学んだ微生物学の事象と理論を観察、検証し、微生物に対するより深い知識と技術の習得することを目的としています。残念なことに今年度は実習がはじまってすぐにコロナ陽性者が出たため、急遽オンライン実習に移行しました。そのため、技術習得の評価が低いのは致し方ないと考えられます。その反面、動画を活用した実習説明、指導などは高く評価されています。スタッフはできる範囲で対応し、学生も可能な範囲で微生物学実習を学んでくれたものと思います。

科目名：寄生虫学実習

(医学科第3学年前期／必修)

履修者数：90 配付数：90 回収数：21 回収率：23.3%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
3.9	4.4	4.0	4.0	3.8	4.1	4.4	3.8	3.4	3.8	3.9	3.9	3.8	3.8	4.0	3.9

*評価に対するコメント

寄生虫学実習 担当教員

寄生虫感染症に対する適切な診断・治療を行うには、寄生虫種の同定が必要です。従って、本実習では、寄生虫標本や病理標本の肉眼と光学顕微鏡を用いた形態観察を通し、寄生虫の形態学的特徴や病原性発現を理解してもらうことを目標としています。今年度は、COVID-19感染症による登校規制が出されたため、急遽オンラインのみの実習となりましたが、実習の満足度は3.9でした。今後も、学生の知識欲を高めるような実習にしたいと考えています。

科目名：病理学実習

(医学科第3学年前期／必修)

履修者数：90 配付数：90 回収数：29 回収率：32.2%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
3.6	4.0	3.8	4.4	4.2	4.4	4.1	4.1	3.7	3.8	3.9	4.0	3.9	4.3	4.4	3.9

*評価に対するコメント

病理学実習 担当教員

今年度の病理学実習はコロナ禍でありましたが、ほぼ対面で行いました。実習は腫瘍病理と免疫病理で折半で担当しており、実習形態については各講座にお任せしております。評価はほぼ4点前後で平均的であると考えます。教員からの資料や説明はあくまでも道標に過ぎず、各自教科書を参考にして学び直して欲しいと切に思います。

科目名：衛生・公衆衛生実習

(医学科第4学年前期／必修)

履修者数：116 配付数：116 回収数：33 回収率：28.4%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
3.8	4.2	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3	4.5	4.1	4.0	3.5	4.2	3.9	4.4	4.4	4.0

*評価に対するコメント

衛生・公衆衛生実習 担当教員

同名授業科目と連動し実体験を通して理解を深める科目であったが、カリキュラム変更により自由テーマ研究実習のための実習期間が確保が困難となったため、全体での環境測定、統計解析の演習と、衛生・公衆衛生の実業務担当者の講演で構成した。測定機器が少ない事や課題レポート提出期限がCBT時期に近いなどの理由で、項目11、13が低かったと思われるが、おおむね良好な評価であった。レポート提出時期は2023年度に考慮したい。

科目名：法医学実習・演習

(医学科第4学年前期／必修)

履修者数：116 配付数：116 回収数：21 回収率：18.1%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
3.9	4.1	3.9	4.2	4.2	4.2	4.4	4.4	3.7	4.0	4.1	3.6	3.7	3.9	4.1	3.9

*評価に対するコメント

法医学実習・演習 担当教員

今年度は対面授業が可能であったが、状況を鑑みて各実習は学習支援システム (manaba) にて行った。事前の配布資料により、概ねスケジュール通り実施することが出来た。医学部教育における法医学の到達目標は、異状死体の検屍 (検案) と、実践に即した医師法の適切な理解である。臨床現場で実際に法医学的思考が必要となった時に、的確な問題解決能力を発揮して頂きたい。

科目名：基礎看護技術学Ⅰ

(看護学科第1学年前期／必修)

履修者数：60 配付数：60 回収数：50 回収率：83.3%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.5	4.6	4.4	4.3	4.6	4.8	4.6	4.7	4.0	4.2	3.4	4.6	4.7	4.6	4.5	4.4

*評価に対するコメント

基礎看護技術学Ⅰ 担当教員

概ね4.0以上の評価でした。多くの皆さんが、予習をし、積極的に参加したことがわかりました。問11「課された提出物の量や内容は適切か」は、例年3点台です。技術学は看護特有の科目であり、演習が多く、演習前後には提出物があります。1年前期では学び方がわからず、困難さがあったと推測します。必要な課題ですので、ご理解いただき、後期基礎看護技術学Ⅱにつなげていただければと思います。

科目名：基礎看護技術学Ⅲ

(看護学科第2学年前期／必修)

履修者数：60 配付数：60 回収数：52 回収率：86.7%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.5	4.4	4.4	4.4	4.5	4.6	4.7	4.6	4.1	4.3	3.8	4.3	4.4	4.5	4.4	4.5

*評価に対するコメント

基礎看護技術学Ⅲ 担当教員

感染対策のため半数ずつ、時間差で演習を行ったため、実習室で行う演習の時間はコロナ前より短縮されていましたが、皆さんは積極的に取り組まれていました。技術の十分な習得が4.1は、演習の満足度は4.5という結果であり、概ね良好な演習企画であったと評価しています。指導体制について4.5～4.6の評価を得ました。全員一斉に演習を実施することになった場合でも、学習目標を達成できるような演習企画・指導体制を整えられるよう検討します。

科目名：基礎看護技術学Ⅳ

(看護学科第2学年前期／必修)

履修者数：60 配付数：60 回収数：54 回収率：90.0%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.3	4.4	4.2	4.5	4.4	4.4	4.4	4.5	3.8	3.8	3.6	4.3	4.2	4.4	4.3	4.2

*評価に対するコメント

基礎看護技術学Ⅳ 担当教員

みなさん予習し、積極的に講義・演習に参加していました。この科目は看護実践のための思考を技術として習得することが目的です。思考は目に見えないので、口頭や記述で言語化することで他者との共有が可能となります。理解が深められるようグループワークと発表を企画しました。活発なディスカッションがありましたが、患者の看護に唯一の解がないことが、難易度が高く十分な習得とは判断できなかつたのではと推測します。

科目名：地域包括ケア実習

(看護学科第3学年前期／必修)

履修者数：61 配付数：61 回収数：48 回収率：78.7%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.2	4.4	4.1	4.2	4.3	4.4	4.2	4.2	4.0	4.2	3.5	4.3	4.1	4.4	4.5	4.3

*評価に対するコメント

地域包括ケア実習 担当教員

健康セミナー「げんき種」の準備と実施、施設実習、専門職インタビュー、全体報告会すべてにとっても熱心に取り組まれていました。授業評価は4点台が多く、実習の満足度についても4.5の評価であり、実習企画として概ね良好であったと考えます。セミナーの準備の進め方、ガイダンスの内容、全体報告会の運営など次年度に向けて改善の意見をいただいたので、よりよい実習企画になるよう検討していきます。

科目名：実践看護技術学Ⅰ

(看護学科第3学年前期／必修)

履修者数：61 配付数：61 回収数：30 回収率：49.2%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.6	4.4	4.2	4.2	4.2	4.4	4.2	4.4	3.9	4.1	3.7	4.3	4.2	4.4	4.3	4.2

*評価に対するコメント

実践看護技術学Ⅰ 担当教員

実践看護技術学Ⅰは第3学年前期の成人看護学領域の演習科目である。後期から履修する臨地看護学実習に向けて、事例をもとに看護技術を修得する。その他、認定看護師(学内特別講師)による授業が含まれている。今年度も新型コロナウイルス感染症による影響で全学生一律に演習ができたわけではないので、問9「3.9」は妥当かと思われる。その他の評点は4点台前半とばらつきがなく、概ね良好であったと考える。

科目名：実践看護技術学Ⅱ

(看護学科第3学年前期／必修)

履修者数：61 配付数：61 回収数：30 回収率：49.2%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.2	4.2	4.0	4.1	4.1	4.3	4.1	4.2	3.7	3.9	3.6	4.1	4.1	4.2	4.3	4.1

*評価に対するコメント

実践看護技術学Ⅱ 担当教員

昨年度から開講している母性看護学、小児看護学、精神看護学合同の演習科目です。領域毎の演習を各領域の演習企画において行いました。感染対策のためオンライン演習になった日もあり、学生評価の通り、技術を習得できたと思えることは難しい状況でした。しかし、真剣に取り組んだ結果、満足できる演習になったことがわかりましたし、その学びは実習に活かすことができます。来年度も実践に活かす演習を検討していきます。

科目名：実践看護技術学Ⅲ

(看護学科第3学年前期／必修)

履修者数：61 配付数：61 回収数：19 回収率：31.1%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
3.9	4.5	4.0	4.2	4.2	4.4	4.4	4.3	3.9	4.1	4.1	4.0	3.7	4.4	4.4	4.3

*評価に対するコメント

実践看護技術学Ⅲ 担当教員

初年度で試行錯誤的などころもありましたが、受講した学生は、事例に適した根拠を考えた技術の練習を重ねて実践できるようになりました。時間割内に練習の機会を設け複数の実習室の確保などにあたりましたが、学生の皆さんは時間外の練習にもグループで協力し合い熱心に取り組んでいました。直後に始まった実習にも活かしていたようで実用的な学習ができていたと思います。

2022 年度前期「企画に対する学生評価」

臨地看護学実習企画に対する学生評価

実 習 計 画	実習ガイダンスは、実習を円滑に行うために役立った。 指導教員と実習指導者の連携はとれていた。
実 習 内 容	実習の内容は関連する講義科目と対応がとれていた。 実習中に課された記録・提出物の量は適切であった。 指導教員や実習指導者から適切な助言が得られた。 教員・実習指導者の説明は具体的でわかりやすかった。 受け持ち患者の看護の難易度は、適切であった。 カンファレンスは実習に役立つ内容であった。
実 習 環 境	教員・実習指導者の対応は、学生を尊重したものであった。 安全と事故防止に対する適切な指導と配慮がなされていた。
総 合 評 価	実習によって、看護職者を目指す意欲が十分に高まった。 この実習は全体として満足できるものであった。

- ⑤ 強く思う (非常に良い)
- ④ やや思う (良い)
- ③ どちらとも言えない (普通)
- ② あまりそう思わない (あまり良くない)
- ① 全くそう思わない (良くない)

科目名：基礎看護学実習Ⅰ (看護学科第1学年前期／必修)

履修者数：60 配付数：57 回収数：56 回収率：98.2%

＊評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.7	4.4	4.4	3.1	4.7	4.6	4.2	4.5	4.6	4.7	4.6	4.6

＊評価に対するコメント 基礎看護学実習Ⅰ 担当教員

初めての臨地看護学実習はオンライン実習と病棟実習の分散実習となりました。感染状況の影響を受け、1人あたりの病棟実習へ参加できる日数が減ったり、体調により完全オンライン実習となった学生もいましたが、実習の満足度は4.6、看護職を目指す意欲も4.6の評価であり、実習企画としては概ね良好と考えます。初めての分散実習でしたので、Zoomを取り入れたカンファレンスの運営等について、いただいた意見について検討し、より良い実習としていきたいと思えます。

科目名：高齢者看護学実習 (看護学科第4学年前期／必修)

履修者数：61 配付数：61 回収数：16 回収率：26.2%

＊評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.0	4.3	4.3	4.2	4.4	4.3	4.2	4.4	4.5	4.4	4.3	4.2

＊評価に対するコメント 高齢者看護学実習 担当教員

高齢者看護学実習は2年ぶりの病棟実習であった。評価は全ての項目で4.0以上であったが、オンライン実習での評価よりも0.1～0.5下がっていた。回収率が低いため、解釈の難しさはあるが、様々な制限と変則的な実習形態で、変更も余儀なくされ学習のしづらさはあったと考える。しかし、コメントには「実習に行くことで沢山学べた」とあり対面実習で患者さんから得るものは大きいと実感した。対面実習の安全な実施の継続に努めたい。

科目名：小児看護学実習

(看護学科第4学年前期／必修)

履修者数：61 配付数：61 回収数：10 回収率：16.4%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
3.9	4.1	4.4	4.5	4.3	4.5	4.6	4.2	4.3	4.5	4.3	4.3

*評価に対するコメント

小児看護学実習 担当教員

回収率が16.4%と低く、学生全体の意見とは言い難いです。それを踏まえたうえで、企画に対する評価は概ね4.0台でした。前年度までトータル3週間で構成された実習が今年度からは新カリキュラムでの実習となり、トータル2週間でした。それに伴って実習内容も変更しました。十分に検討した内容ですが、学生からどのような評価を得るのか、多少の心配もありました。学生の少数意見ではありますが、まずまずの評価を得られ、安心しました。

科目名：在宅看護学実習

(看護学科第4学年前期／必修)

履修者数：61 配付数：61 回収数：12 回収率：19.7%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
3.9	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3	4.5	4.3	4.5	4.6	4.3	4.3

*評価に対するコメント

在宅看護学実習 担当教員

今年度の在宅看護学実習は、訪問看護ステーションでの実習を半日に短縮し、隔日で実習を行いました。それぞれのステーションの状況により、同行訪問の件数にばらつきはありましたが、自宅で暮らす利用者さんの生活の実際を見ることができたと思います。この実習での学びが、今後の皆さん看護に役立つことを期待しています。実習お疲れさまでした。

ご存知ですか？大学内で国民年金の学生納付特例申請が可能です！

本学は国民年金法の規程に基づく学生納付特例事務法人の指定を受けているため、本学学生支援課の窓口でも、学生納付特例制度の申請手続きができます。



学生納付特例制度は、学生の皆さんが、申請により保険料の納付が猶予される制度です。この制度を利用することで、万一の事故などにより障害を負ったときの障害基礎年金の受給資格を確保することができます。

申請書類は学生支援課にありますので、申請を希望する方は、学生支援課学生総務係までお越しください。住民票を旭川市に移していない方でも、大学内で申請可能です。

学生納付特例制度とは？

所得の少ない学生の方が、国民年金保険料の納付を先送り(猶予)できる制度です。

- * 病気やけがで障害が残ったときも障害基礎年金を受け取ることができます。
- * 所得の目安は、 $128\text{万円} + \text{扶養親族等の数} \times 38\text{万円}$ で計算した額以下である場合です。

学生納付特例期間の年金はどうなるの？

将来受け取る年金の受給資格期間には算入されますが、年金額には反映されません。

	老齢基礎年金		障害基礎年金(注) 遺族基礎年金
	受給資格期間への算入	年金額への反映	受給資格期間への算入
納付	○	○	○
学生納付特例	○	×	○
未納	×	×	×

(注)障害基礎年金および遺族基礎年金を受け取るには一定の要件があります。

申請時の注意点

- 申請できる期間
 - * 過去期間は申請書が受理された月から2年1か月前(既に保険料が納付済の月を除く)まで、将来は年度末まで申請できます。
- 申請に必要な書類
 - * 申請書
 - * 年金手帳(氏名記載ページ)のコピーと学生証
 - * 失業等の理由により申請を行う場合は、失業した事実が確認できる雇用保険受給者証又は雇用保険被保険者離職票等のコピー

※本学ではマイナンバーを使った学生納付特例申請は出来ません。マイナンバーを使用して申請したい場合には、お近くの年金事務所での申請をお願いいたします。

令和5年度授業料の免除等の申請について

本学の授業料免除は、「高等教育の修学支援新制度による授業料減免（以下「新制度」。）」と「令和元年度以前からの従来の授業料免除（以下「旧制度」。）」の二制度により実施しています。いずれも申請の手続きが必要となりますので、以下の基準等に該当すると思われる学生で、授業料の免除等を希望する場合は、手続きを行ってください。

I. 授業料の免除等の基準等

1. 新制度

授業料減免・日本学生支援機構の給付型奨学金が一体となった制度であり、支援対象となる学生は、住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯の学生で、次の①～③の要件があります。詳細につきましては、文部科学省等のホームページを参照してください。

- ①学業成績等に係る基準 ～ 成績不振により留置きとなった場合等は対象外となります。
- ②家計に係る基準
- ③その他 ～ 学士取得後に入学した場合等は対象外となります。

※文部科学省高等教育の修学支援新制度のホームページ

<https://www.mext.go.jp/kyufu/>

2. 旧制度

令和元年度までに入学した学生で、令和元年度に旧制度の支援を受けており、新制度に該当しない学生が対象となります。本学が授業料免除予算額の範囲内で免除者を決定し、全額免除又は半額免除を行います。現制度の免除基準につきましては、以下をご覧ください。

- ①経済的理由により、授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀であると認められる場合。
なお、原級に留め置かれている者、又は最短修業年限を超えて在学している者は、免除の対象とはなりません。（病気・留学など特別な事由があると認められる場合は除きます。）。

※学業優秀と判断する基準

学部第1学年及び編入学生の当該年度の取扱いは入学を以って学力基準を満たしているとする。
学部第2学年以上の学生については、進級を以って学力基準を満たしているとする。

※修業年限の取扱い

医 学 科 6年（第2年次編入学生は5年、ただし平成27年度以前の編入学生は4年6ヶ月）
看護学科 4年

- ②授業料納期前6か月以内において学生の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡した場合、又は本人若しくは学資負担者が風水害等に被災したことにより、授業料の納付が困難であると認められる場合。

③②に準じる場合であって、学長が相当と認める事由がある場合。

◎授業料滞納者の授業料免除申請は受理しません。

II. 申請期間等

別途お知らせします。

III. 問い合わせ先

学生支援課学生総務係

TEL：0166-68-2283

Mail：gaku-stu@asahikawa-med.ac.jp

令和5年度日本学生支援機構奨学生の募集について

日本学生支援機構は、優秀な学生でかつ経済的な理由により修学困難な者に学資の貸与及び給付を行っています。本学では、日本学生支援機構からの推薦依頼に基づき、申請者の種々の条件を考慮して選考を行い、日本学生支援機構へ推薦しています。

令和5年度の奨学生募集は、別途お知らせします。奨学金を希望する学生は、提出期限内に所定の書類を提出してください。

なお、募集時期以外に家計の急変により、学資の支弁に困難な事情が生じた場合は、学生支援課学生総務係に相談してください。

教員の異動

令和4年12月31日	辞職	医学部精神医学講座	准教授	田村義之
令和5年1月1日	昇任	医学部小児科学講座	教授	高橋悟
令和5年1月1日	昇任	医学部救急医学講座	教授	岡田基
令和5年2月20日	採用	医学部数学	准教授	加藤勲